

# 伊都国歴史博物館

## 紀 要

第 4 号



筑前国志麻郡における律令期祭祀とト部の関係

—元岡・桑原遺跡群第20次調査から—

..... 檜崎直子

原始・古代船の推進具を考える(中)

～縄文時代から古墳時代を中心とした推進具集成～

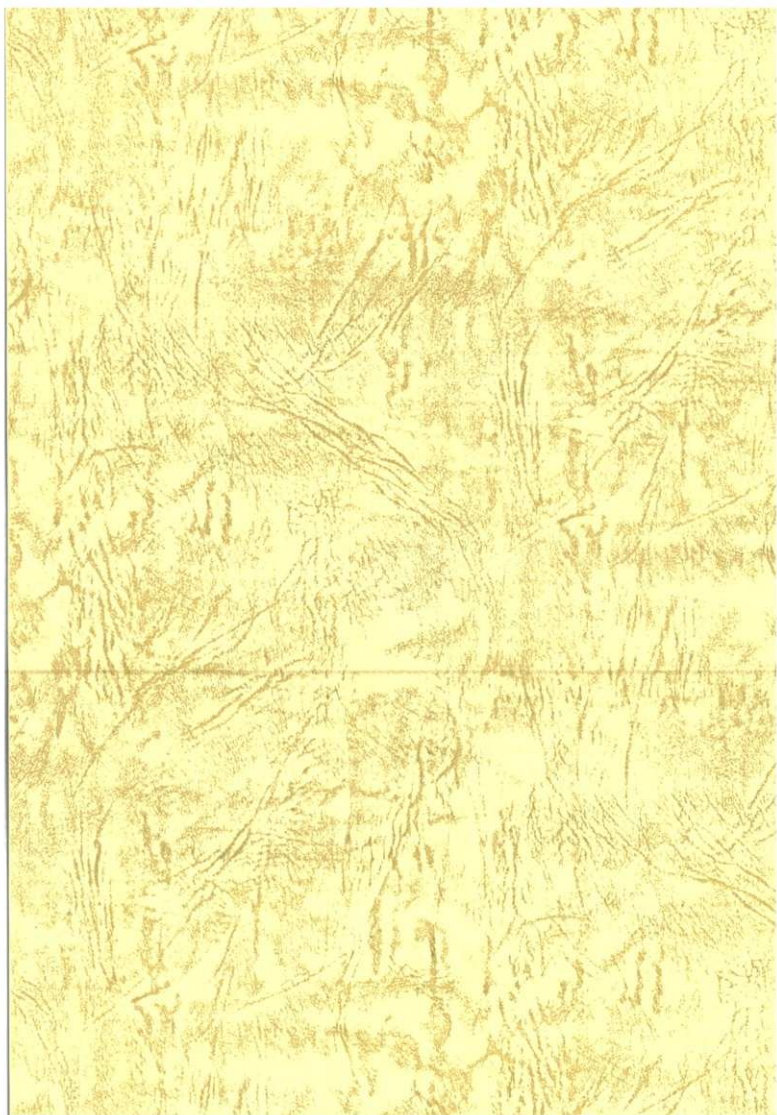
..... 江野道和

<伊都学講座抄録>

古代糸島地方と鉄—弥生～奈良時代を中心に—

..... 岡部裕俊

2009



## 序

伊都国歴史博物館は平成16年10月に開館し、伊都国が栄えた弥生時代を中心に歴史と文化に関する展示を行ってきました。おかげさまで、開館してから4年半の歳月が経過し、多くのお客様にご来館いただき、当地の歴史文化をご堪能いただいております。

博物館では、学芸員を中心に糸島地方の歴史・文化に関する展示の企画、準備を行いながら、併せて啓発活動、資料調査、研究活動を展開しています。

これら活動のなかで得た知見をまとめた成果を、各年度に紀要として刊行していますが、本号はその4冊目にあたります。

本年度も3名の学芸員がそれぞれの活動、調査成果を短文にまとめました。貴重な発見の相次ぐ元岡・桑原遺跡群における律令期の祭祀系遺物出土の背景に関する考察、古代の水上交通に要する推進具に関する資料集成、古代の糸島地方の人々と鉄との関わりに関する講義録等、各担当者の個性が滲んだものとなっています。

最後になりましたが、本書の刊行にあたって各位よりご協力を賜り、心より感謝申し上げます。また、内容につきましては、忌憚のないご意見をお寄せいただけますようお願い申し上げます。

平成21年3月31日

伊都国歴史博物館  
館長 菊竹 利嗣

## 目 次

筑前国志麻郡における律令期祭祀と卜部の関係 —元岡・桑原遺跡群第20次調査から— (檜嶋直子).....	1
原始・古代船の推進具を考える(中) ～縄文時代から古墳時代を中心とした推進具集成～ (江野道和).....	9
<伊都学講座抄録> 古代の糸島地方と鉄—弥生～奈良時代を中心に— (岡部裕俊) .....	17

# 筑前国志麻郡における律令期祭祀と卜部の関係

—元岡・桑原遺跡群第20次調査から—

植崎直子(伊都国歴史博物館)

## I はじめに

糸島半島東部に位置する元岡・桑原遺跡群(福岡市西区)からは、「解除」木筒や木製模造品などが出土しており、律令制度下で何らかの祭祀行為があったことが推測される。一方、大宝2年筑前国崎郡川辺里戸籍には、神祇系氏族である「卜部」が数多く確認できる(竹内編1965・植崎2009)。

そこで、志麻郡における祭祀執行にあたっての川辺里卜部の関与の可能性を検証し、あわせて8世紀の社会情勢を振り返り、大宰府・律令政府との関連のなかで、川辺里卜部にはどのような存在意義があったのかを考察してみたい。

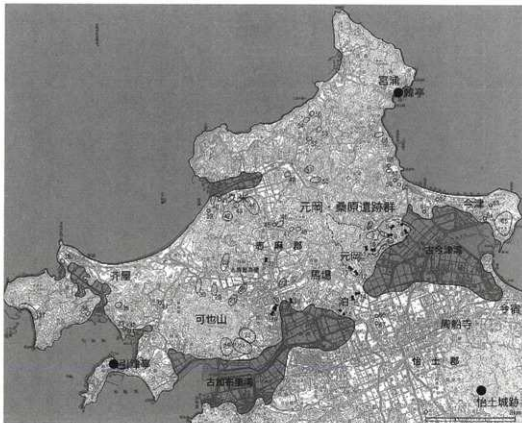
## II 元岡・桑原遺跡群の位置と環境

元岡・桑原遺跡群は、糸島半島の東部、古今津湾の北岸に位置し、九州大学の移転統合に伴って福岡市教育委員会により平成8年から継続的に発

掘調査が実施されている。

当地は、江戸時代以前においては、現在の前原市沿付近まで今津湾が湾入しており、低地の多くはラグーン状を呈し、平野部は少ないが内湾として天然の良港であったと思われる。縄文時代の遺構としては、早期の炉跡群が検出されており、後期の貝塚も点在している。弥生時代中期～後期には、前原市との市境近くに集落が形成され、青銅器、土器、木製品など様々な遺物のほか、無文土器、中国貨幣、青銅製靱尻金具などの中国・朝鮮半島系遺物が出土している。このことから、対外交渉の拠点のひとつとして機能した、伊都国全盛期における糸島東部の湾岸集落として、今宿五郎江・大塚遺跡とともに注目を集めている。

古墳時代に入ると金塚古墳・塩除古墳などの前期前方後円墳が築かれており、古今津湾岸が引き



第1図 糸島地方の旧地形 (星野2005 第1図を改変)

続き交易における重要地域であったことがうかがえる。しかし中期には円墳である元岡経塚古墳以外、首長墳の築造が止まり、後期に入ると再び前方後円墳である石ヶ原古墳が築造され、石ヶ元古墳群、元岡古墳群など約70基からなる群集墳が次々と営まれていく。石ヶ元古墳群には、**単麻環頭大刀**や**金銅装馬具**、**鍛冶工具一式**等が副葬されており、6世紀以降は徐々に軍事的に重視されていく傾向がうかがえる。このことは、**筑紫君磐井の乱**(527年)後の、**豪族・肥君の肥後から北部九州への進出**、特に糸島地方への進出と無関係ではなく、これが後の**大宝2年筑前國嶋郡川辺里戸籍**にみる郡司・肥君猪手の大家族構成につながるものと推察される(小田1997・伊都國歴史博物館2008)。

古代には、第12次調査における27基の製鉄炉をはじめとした製鉄関連遺構が検出されており、官営による大規模製鉄の様相を呈している。さらに第7次・12次・18次・20次調査等で出土した木

簡、緑釉陶器、帯金具、硯、墨書土器などの遺物、および大規模な造成を伴い建てられた倉庫群等に官衛の様相が認められ、大宰府との深い関連がうかがえる。第20次調査では「大宝元(701)年」、「延暦四(785)年」の記年銘木簡が確認されており、特に「大宝元年」木簡は、元号制が地方にもダイレクトに導入されたことを証明する点で注目される。

このように、元岡・桑原遺跡群は伊都国の時代から律令期に至るまで、時代の要求に対応した姿を今に伝えており、糸島地方の歴史の変遷を考えるうえで非常に重要な鍵を握る地域である。

### III 元岡・桑原遺跡群第20次調査の祭祀関連遺物

元岡・桑原遺跡群第20次調査の池状遺構SX001からは、多くの木製品(木簡・農具・日常品など)とともに祭祀関連遺物が出土している(菅波2007)。



第2図 元岡・桑原遺跡群分布図(縮尺1/22,000) (菅波2007 第1図を改変)

調査地点は、金屋古墳が立地する丘陵の西側にあたり、幅約50mの北東方向へ開口する谷部(旧大原川に合流する)にある。SX001は、従米の谷を上手状遺構(幅約3m、長さ約14m)で堰きとめて形成した池状遺構で、出土土器および大宝元年・延暦4年銘木簡から8世紀代に機能したものであると思われる。池状を呈しているのは、高床倉庫群設置時に地形を改変し、堰きとめて流路を変更したためと考えられている。

SX001および流出部出土祭祀関連遺物の概要は以下のとおりである。

・舟形木製品(第3図1~6)は、直径2~5cmの丸木を加工したもので、両端を削り尖らせ(1~3)、あるいは両端部・中央部を残して二箇所に挟りを入れて(5・6)屋形船のような形状のものと、中央部を彫りくぼめたもの(4)がある。数は祭祀関連遺物の中で最多で、20数点が確認されている。

・人形木製品(第3図7)は1点で、丸木材を加工して頭部~胴部を表現する。手足はなく胴部下方に挟りが施される。

・陽物木製品(第3図8)は1点で、長さ約12cmで丸木材の先端に亀頭を表現している。男根状木製品とも称される。

・鳴鐘(第3図9~11)は長さ5cm前後で、3点出土している。4箇所に孔が施されたものもある。五反島遺跡(大阪府吹田市)の9世紀における水辺祭祀遺構から出土した鳴鐘を装着した雁股式鉄鎌と同様、本来は雁股式鉄鎌と組み合わせて装着されていたと思われる。

・雁股式鉄鎌(第3図12・13)は2点出土している。12は挟りが浅く、13は深い。13はハート状の透かしをもつ。鳴鐘を装着し、祭礼儀式用あるいは威嚇を目的としたものか。

・「道塞」木簡(第3図14)は幅1.9cm、長さ17.2cm、厚さ0.4cmで、上部を欠損するが「道塞」2文字が確認できる。下方を尖らせる形状から斎巾を髣髴とさせる。地面に突き刺し結界を表した可能性がある。

さて、これら祭祀関連遺物から、この地において何らかの祭祀行為があったことがわかるのであるが、都城を中心に出土する板状の人形木製品や人面墨書土器の出土がないことが特徴のひとつである。人形木製品や人面墨書土器を含んで構成される祭祀は、いわゆる大祓に関係するものと考えられている(金子1985)。大宰府周辺におい

ても大野城市仲島遺跡から人面墨書土器が2点出土しており、祓の痕跡として注目される(舟山1981)。これに対し、第20次調査出土祭祀関連遺物のなかには、(大)祓を特徴付ける災い・穢れを移すべき人形木製品あるいは人面墨書土器はほとんどなく、唯一出土したこけし状の人形木製品も陽物木製品としての可能性が指摘されている<sup>1)</sup>。

そこで、第20次調査出土祭祀関連遺物の中で特徴的なものとして、平川南氏は陽物木製品と「道塞」木簡の二つを挙げ、以下のように道祖神信仰に関連するものと考えている(平川2006)。

まず、陽物木製品は、現代でも道祖神祭祀において災いの侵入を阻むため、集落の入口に陽物を模して設置する習俗が各地に残っているが、それは、はるか旧石器時代より生命・活力の象徴と考えられ、辟邪の呪具として使用されてきたものである。

古代の朝鮮半島での例としては、韓国・陵山里寺跡(忠清南道扶餘郡扶餘邑)から出土した「道縁立立立」と墨書された陽物木製品が目目され、6世紀前半、百済泗城を囲む羅城の東門付近の道縁路に設置されたものと推定されている。

またわが国においても、前期難波宮跡の宮城北西隅で2点の陽物木製品が出土しており、同様に多賀城跡から2点の陽物木製品が、いずれも多賀城外郭線付近(東南隅、南門西側)で出土している(岡田茂弘他1970)。このように、陽物木製品は古代都城においては、城内への邪悪ものの侵入を塞ぐ目的で使用されたことに由来する。

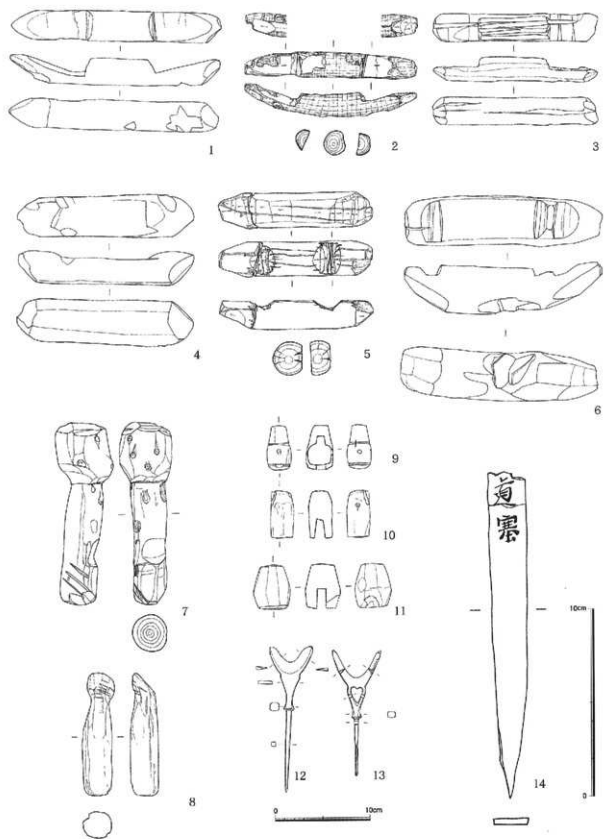
また、「道塞」木簡は「塞神」すなわち道祖神である「サエノカミ」との関連が密接で、いわゆる呪符木簡と考えられるという。

よって、これらのことから第20次SX001における祭祀行為も、道祖神信仰に関する祭祀としての性格、ひいては都城祭祀としての「道饗祭」との関連が浮かび上がってくるのである。

#### IV 川辺里戸籍と卜部

旧志麻郡(現在の志摩町、福岡市西区および前原市の一部)は、『倭名類聚抄』によれば、韓良・登志・久米・明敷・鶯永・志麻・川辺の七郷からなり、韓良は唐泊、登志は今津、久米は久米、鶯永は芥原付近に比定され、ほぼ見解は一致している。川辺については、これまで泊・馬場説が有力であったが(是松1952)、近年の元岡・桑原遺跡群の調査成果を





第3図 元岡・桑原遺跡群大20次調査出土祭祀関連遺物 (縮尺1/4、木簡のみ1/2)  
 (菅波2007 第45・46・47・49・53図、福岡市教育委員会2003 第9図を改変)



受けて、元岡一带とみる傾向が強くなっており(丸山1998)、遺跡群と大宝2年筑前国嶋郡川辺里戸籍との関係性が注目されている。さて、前項では志麻郡での律令的祭祀について紹介したが、ここで注目すべきは、川辺里戸籍に記載される氏族には、祭祀関連氏族が多数含まれるという事実である。

川辺里戸籍残簡に記載が確認できる人数は439名であるが、そのうちト部が85名で肥君の79名を上回る。さらにト部に加え中臣部11名、大神部12名と、祭祀関係氏族の割合が2割を超えることがわかる。戸主構成を見てもト部7戸、肥君・物部・葛野部がそれぞれ4戸と続き、ト部の戸が最多である。

この川辺里ト部は部民として志麻郡に集住していたものだが、そもそもト部の職能は、中国に源流をもつ亀ト(アカウミガメ)の腹甲を火で焙り、その割れ目で吉凶を占う)により国家の重要事項を占うことであった。「延喜式」第三巻神祇三臨時祭によると、

凡そ宮主はト部の事に堪うる者取りて之に任ず。其のト部は三国にて卜術優良なる者を取る。伊豆五人、志岐五人、対馬十人。若し部に在る人を取らば、卜術群に絶するに非ざれば、輒く充つるを得ず。

とあり、伊豆・志岐・対馬から20名のト部が神祇官へ出仕していたことがわかる。ト部が都城で携わった祭祀は、①大祓、②道饗祭、③鎮火祭などがあるが、

#### ①大祓については、『神祇令』に

凡そ六月・十二月の晦日の大祓には、中臣は御蔽麻をたてまつれ。東西文部は祓刀をたてまつり、祓詞を説め。詔りなば、百官男女を蔽所に衆め集へて、中臣は祓詞を宣り、ト部は解除をせよ。と規定されるよう、中臣氏が祝詞を述べ、ト部が解除(祓)を行った。

#### ②道饗祭については、『神祇令集解』に

道饗祭 謂うところは、ト部等京城四道上において祭る。言はく、鬼魅をして外より来らば、あえて京師に入れざらしめんとす。故に預め路に迎えて饗し過むるなり。釈に云う。京の四方の大路の最極なり。ト部等祭るに牛皮ならびに鹿、猪の皮を用いるなり。これ鬼魅外より宮内に来ること莫からんがために祭る。左右京職預かる。とあるように、ト部の手により都城への鬼魅の侵入を塞ぐ目的で、四方の大路の最極で鬼魅をもてな

す祭が行われている。

#### ③鎮火祭についても道饗祭と同様の目的で行われ、『神祇令集解』に

鎮火祭 謂うところは宮城の四方の外角に在りて、ト部等火を鑽りて祭る。火災を防がんがため。故に鎮火という。

と記される。このようにト部は災い・邪霊を祓う祭祀に深く関わり、「不吉な祟や災禍の生じたとき、(中略)祟る神をトをもってさぐりあてて知り、これを防ぐ司祭者」であったのである(横田1971)。

それでは西海道においてはどうかだったのか。平野博之氏は、天安3(859)年3月13日の太政官符「応誠筑紫防人一二人便宛在京及府ト部斷丁事」中、対馬における「筑紫防人百二人の内、一二人を減じてト部の斷丁に宛てる」の記述から、一二人とは十人が神祇官の対馬ト部の、二人が大宰府の対馬ト部の斷丁であるとした。すなわち、大宰府においても大宰主神のもとに対馬、志岐出自の数人のト部の存在を想定した(平野1966A)。これは9世紀の事例で、どこまで遡ることができるか明らかではないが、おそらく律令期にもその存在を認めてよいと思われる。

それを傍証するのが、元岡・桑原遺跡群第15次調査出上の「解除」ではじまる木簡で、第12次調査で明らかになった大規模鉄造遺構と「解除=祓」との関連が指摘されている。そして多数の川辺里ト部の存在から逆推すれば、大宰府主導による祭祀執行にあたり、川辺里ト部が部民として率いられ、その雑用(祭祀具の製作、手配等)に動員されたと考えられるのではないだろうか。

#### V 8世紀の糸島～ト部による祭祀の可能性～

さて、先に述べたように、元岡・桑原遺跡群第20次調査出土祭祀関連遺物が物語る祭祀が、道祖神信仰ひいては道饗祭に結びつく祭祀形態であることが推測されたが、その目的・対象はいかなるもので、果たして川辺里ト部との関連は見出せるのか。ここで当時の時代背景を振り返り、糸島と大宰府・律令政府との関係を考慮しながらその可能性を検証したい。

#### ①疫病対策

8世紀前半、大宰府管内ではたびたび疫病が流布しており、時に政府要人らの命をも奪う猛威を振るったことが知られる。

まず、天平7(735)年8月には

乙未、勳していわく、開くならく、このころ、大宰府に疫に死ぬ者多し。疫氣を救い療して、民の命を濟わんと思欲う。ここをもって、幣をか部の神祇に奉り、民のために祈らしむ。また府の太宰府および別国の諸寺をして、金剛般若経を誦ましむ。よりに使を遣わして疫民に賑給し、ならびに湯薬を加えしむ。またその長門より以還の諸国の守、もしくは介、もつぱら齋戒し、道饗祭を祀れ、と。(『続日本紀』)

とあり、また、この疫病発生のおよそ2年後の天平9(737)年、

癸亥、大宰管内の諸国、疫瘡時行り、百姓多く死す。詔して、幣を部内の諸社に奉り、もって祈禱せしむ。また、貧疫の家を賑恤し、あわせて湯薬を給いて療せしむ。(『続日本紀』)

とあるように、再び大宰府管内で疫死が多発したことが知られる。さらに、この時の疫病(天然痘か)は大宰管内での流布にとどまらず全国展開したようで、同年春条として

疫瘡大発す。はじめ筑紫より来り、夏を経て秋に渉る。公卿以下天下百姓、相繼いで没死すること、あけて計うべからず。近代以来、いまだこれあらざるなり。(『続日本紀』)

と特記されている。この年、藤原四子(武智麻呂・宇合・房前・麻呂-)もこの天然痘により相次いで命を落とした。

以上のように、疫病は春に筑紫で発生し、夏から秋にかけて国中で大流行し、多くの民や律令政府の要人の命を次々に奪ったのであり、当時最も畏れるべき事態のひとつであったと思われる。

これを受けて国家および国府では民への救済活動が実施されているのであるが、祭祀としては、天平7年の条にみえるように道饗祭が執行されていることに注目したい。すなわち、このような疫病を塞ぐ目的で行われたのが道饗祭であり、都城においては都城祭祀として卜部の手により6月・12月に行われていたのであるが、ここでは諸国の役人が道饗祭を担っていることがわかる。おそらく、異国を通じて疫病の発生源ともなる筑紫では、このような疫病退散の祭祀は大きな意味があったと思われる。大宰府管内、特に志麻郡においては、そのような場合に卜部が関与した可能性は十分にあり得ることである。

#### ②悪霊・怨霊対策

『神祇令集解』道饗祭の項にみえる「鬼魅」から

浮かびあがるものとして悪霊・怨霊がある。

目に見えない災いの根源として恐れられたもので、この時期大宰府管内に関連するものとして、藤原広嗣の怨霊化が挙げられるだろう。それは天平12(740)年8月、大宰大式であった広嗣が、大宰の側近から吉備真備と玄昉を排除するよう求め、9月に拳兵するも11月に肥前松浦にて処刑された、いわゆる藤原広嗣の乱の後に広まった現象である。天平18(746)年に大宰府にて造観世音寺別当であった玄昉が暗殺された際も、世間では「広嗣の霊の為に害せらる」として彼の怨霊化が噂されていたのである。

広嗣に排斥を訴えられたもう一人、吉備真備が天平勝宝2(750)年に筑前守に左遷されたことも、彼の政敵・藤原仲麻呂が、真備を玄昉と同じ運命に陥れるための策とも推定されている。真備はその後肥前守を経て、遣唐使として唐で兵法を身につけ、天平勝宝8(756)年に怡土城築城に着手するのであるが、怡土城が肥前方面に向かって築造されていることは、広嗣と関係の深い、肥前を強く意識したことの表れともとれるという(長1986)。

#### ③異国対策

天平勝宝5(753)年、遣唐副使・大伴古麻呂が唐の朝賀において新羅と席次を争い、また同年、遣新羅使・小野田守も新羅の欠礼により途中帰国したことから、新羅との関係が悪化する。怡土城築城はそのような情勢を受けて始まった。その後、遣渤海使となった小野田守から唐・安祿山の反乱が奏上され、天平宝字2(758)年12月、大宰府にその対策が命じられている。さらに天平宝字5(761)年7月には、非常時に備え大宰府管内諸国に命じて武器(鎧・刀・弓・矢)を造らせているが、これは折からの新羅征討計画に関係するとも考えられている。

その後、延暦11(792)年に諸国の兵士が廃止され、また延暦18(799)年に京への連絡手段としての烽火が廃止された際、大宰府および大宰府管内諸国のそれらは継続されたことも、京にとって西海道が軍事的に重要地域であったことを物語る。

すなわち、外来の敵の侵入に備えるという意味からみれば、怡土城築城による大宰府防衛を担った糸島地方は、道祖神信仰あるいは道饗祭の対象となり得るものと考えられるだろう。

#### ④対外交渉の成功祈願

天平8(736)年大使・阿部継麻呂、副史・大伴三

#### ④対外交渉の成功祈願

天平8(736)年大使・阿部羅麻呂、副史・大伴三仲ら遣新羅使一行は6月に難波津を出航し、瀬戸内海を経て秋に筑紫に至り、筑紫館、志麻郡韓亭、志麻郡引津亭、松浦郡伯島、志岐島、対馬浅茅浦、対馬竹敷浦を経て新羅へ入った。本来ならば同年秋には帰京する予定であったが、途中、暴風に見舞われ漂流するなど海難に合い、風待ちでも予想以上の日数を費やした。結局対馬から新羅へ発ったのが7月末～8月初め頃と思われ、帰国したのは翌天平9年正月27日であった。

外交上は、新羅の無礼により外交使節としての礼遇を受けずに帰国し、また航海の途中、大使である阿部羅麻呂は対馬で病死し、副史以下40名も病のため入京できないという、非常に厳しい状況であった。この一行が、風待ちで立ち寄った志麻郡韓亭は、元岡・桑原遺跡群から5km程北の現在の福岡市西区宮浦に位置する。ここで停泊していた一行と元岡・桑原遺跡群との関係は一切不明であるが、遣使の構成員である卜部として、志岐出身の雪連宅満が同行していたことは興味深い<sup>14</sup>。

外交成功祈願が直接的に遣使に関連するものではないと考えるが、疫病で多くの遣使を失っていた背景から、病氣平癒・疫病退散の願いも込めての祭祀が行われたとしても不自然ではないだろう。

#### VI 西海道の卜部に求められたもの

以上、疫病流布、外交問題といった8世紀における大宰府管内の主な情勢から、志麻郡における祭祀の対象として考え得る事情をいくつか示した。到底その祭祀内容は特定できないが、そこに大宰府在住の対馬・志岐の卜部および川辺里卜部の関与を推定するとき、当時の様々な不安要素が取り巻いていた情勢下で、彼らの祭祀力に求められたものは大きかったと推測される。

さて、わが国における卜占の展開をみると、その存在は弥生時代中期には認められ、原の辻遺跡、カラカミ遺跡(いずれも長崎県志岐市)、青谷上寺地遺跡(鳥取県鳥取市)、間口洞穴遺跡(神奈川県三浦市)などから卜骨が出土している。韓国郡谷里貝塚、勸島遺跡(いずれも全羅南道)における卜骨出土例から、わが国には対外交渉を通じて半島からもたらされたと推察される。

その後、卜骨から亀卜へと変わるのだが、志多

留貝塚(長崎県対馬市)、串山ミルメ遺跡(長崎県志岐市)、鍼切遺跡(神奈川県横須賀市)、間口洞穴遺跡(神奈川県三浦市)など少数であるが、6世紀から7世紀の亀卜出土例が知られる。

ここで注目すべきは、亀卜出土地がいずれも弥生時代からト骨によるト占を行っている地であり、後に神祇官へ出仕した卜部の出自に関係が深い点である。これらに共通するのは、いずれも海上交通の要衝で、ヤマト王権・律令政府にとって重要地域であったことである。諸国における卜部(占部)の分布をみても、筑前国志麻(嶋)郡ほか、東国においては常陸国鹿島郡、上総国須恵郡、下総国千葉郡、武蔵国豊島郡といった沿岸地域に多い傾向があり、卜部が海との結びつきの強い一面をうかがわせる。

さて、糸島地方は、対外交渉の拠点として伊都国の時代より対馬・志岐と密接な関係にあったが(伊都国歴史博物館2007)、それは律令制度下にあっても同様であったと思われる。対馬・志岐に亀卜が伝わった時期は不詳ながら、平野氏は、伊豆の卜部が亀卜を採用したのは対馬・志岐の卜部と接触した後と想定する(平野1966B)。大陸由来の亀卜がまず対馬・志岐の豪族により受容され伝統的祭祀とされていたものが、都城祭祀における大陸流ト占への関心の高まりを受け、その中に取り込まれて卜部として編成されていくと考えられるだろう。そして伊豆を含む東国の卜部が蝦夷対策とすれば、必然的に対馬・志岐および川辺里卜部には、朝鮮半島・中国・渤海への異国対策という役割が課せられていたと言えるのである。

元岡・桑原遺跡群第20次調査出土祭祀関連遺物のうち、舟形木製品の数が多いことは、玄界灘を介して異国との接点となる糸島地方の性格を最もよく反映し、鴻臚館～博多湾を望むこの地に求められる祭祀の内容を知る手がかりとなるものである。この時期、神への奉納品として多量の滑石製舟形が知られる沖ノ島(福岡県宗像市)祭祀との比較も、今後検討していく必要があるだろう。

#### VII おわりに

今回は、元岡・桑原遺跡群第20次調査の成果から浮かびあがる道祖神信仰・道裏祭の様相を取り上げ、卜部との関連性を論じた。大宝2年戸籍に卜部が多数存在することや、和銅2(709)年に志麻郡少領・中臣部加比が、中臣志斐連に賜姓され

たことなどから、志麻郡の祭祀に比重が置かれていたと推察される訳であるが、8世紀における大宰府管内の歴史的動きのなかで糸島の置かれた立場を考慮するうえで、拙稿が問題提起となれば幸いである。今後の研究および周辺地域の調査等から、卜部の存在意義がより具体的になることに期待したい。

最後に、本稿を成すにあたり、資料の実見では福岡市埋蔵文化財センターの瀧本正志氏、田上勇一郎氏に協力をいただきました。記して感謝申し上げます。

#### [注]

- 1) 木製品の下部に挟りがあることから、紐をかけて遊ぎに吊るしたものか。百濟・陵山寺寺跡、多賀城跡出土陶物木製品は、このような方法で使用されたと思われる。(平川2006)  
なお、SX001から横紋状の木製品が多数出土しているが、これについては使用痕がないことや、成形が粗く形状も実用的ではないことから、人形を含めた他の用途も検討しなければならぬ。
- 2) 平川氏の判読による。
- 3) ただし、「大宝令」の注釈書「古記」には“卜部多数”とあり、大宝令以前には人数の規定はなかった可能性がある。
- 4) 卜部ではなく通訳であったとする説もある。
- 5) 卜部と同族で天候等の観察に優れたことで知られる。

#### [参考文献]

- 井上巖達 1980 「卜部の研究」『古代王権と宗教的部民』柏書房
- 伊都国歴史博物館 2007 『平成19年度秋季特別展図録 倭人の海道——支国と伊都国——』
- 伊都国歴史博物館 2008 『平成20年度秋季特別展図録 玄界灘を制したも—伊都國王と宗像君—』
- 小田富士雄 1997 『筑前国志麻(嶋)郡の古墳文化—福岡市元向所在古墳群の歴史的評価—』『古文化談叢』第39集
- 岡田茂弘他 1970 『多賀城跡』昭和45年度発掘調査概報 筑前県教育委員会・宮城県多賀城跡調査研究所
- 勝本町教育委員会 1985 『カラカミ遺跡』勝本町文化財調査報告書第3集
- 勝本町教育委員会 1989 『本ミルメ浦遺跡』—第2次調査報告書— 勝本町文化財調査報告書第7集
- 神澤勇一 1990 『呪術の世界—骨卜のまつり—』『考古学ゼ

ミナル 弥生人のまつり』六興出版

- 金子裕之 1985 『平城京と祭場』『国立歴史民俗博物館研究報告』第7集 本編 国立歴史民俗博物館
- 金子裕之 2000 『考古学からみた律令的祭祀の成立』『考古学研究』第46巻第4号
- 黒板勝美編 1935 『国史大系』第二巻 日本紀 吉川弘文館
- 国立歴史民俗博物館 1985 『国立歴史民俗博物館研究報告』第7集 共同研究『古代の祭祀と信仰』附編 祭祀関係遺物出土地地名表
- 是松茂男 1952 『筑前国嶋郡川辺里の位置』『糸高文林』1 福岡県立糸島高等学校
- 吹田市立博物館 2002 『川の古代祭祀—一反島遺跡を考える—』
- 菅波正人 2007 『元岡・桑原遺跡群』8 福岡市埋蔵文化財調査報告書第962集 福岡市教育委員会
- 竹内理三編 1965 『摩束遺文』上巻 東京堂出版
- 太宰府市史編纂委員会 2003 『太宰府市史』古代資料編 きょうせい
- 長洋一 1986 『天平宝字五年の肥前国』『西南学院大学 国際文化論叢』第一巻第二号
- 植崎重子 2009 『筑前国川辺里にみる社会構成—肥前猪手と一二四人の家族—』『新修志摩町史』古代編 志摩町
- 平川南 1999 『古代地方都市論 多賀城とその周辺』『国立歴史民俗博物館研究報告』第78集 国立歴史民俗博物館
- 平川南 2006 『道祖神信仰の源流—古代の道の祭祀と陶物形木製品から—』『国立歴史民俗博物館研究報告』第133集 国立歴史民俗博物館
- 平野博之 1966 A 『大宰主神考—8世紀を中心として—』『筑前山工業高等学校 研究紀要』創刊号
- 平野博之 1966 B 『対馬・巻姥卜部について』『古代文化』第17巻第3号
- 舟山良一 1981 『仲島遺跡Ⅱ』大野城市文化財調査報告書第6集 大野城市教育委員会
- 福岡市教育委員会 2003 『九州大学総合転写地内埋蔵文化財発掘調査概報2—元岡・桑原遺跡群発掘調査—』
- 黒野恵美 2005 『元岡・桑原遺跡群』5 福岡市埋蔵文化財調査報告書第861集 福岡市教育委員会
- 丸山龍成 1998 『筑前国嶋郡川辺里の比定地をめぐる問題』『日本歴史』605号
- 水野正好 1985 『招福・除災—その考古学—』『国立歴史民俗博物館研究報告』第7集 本編 国立歴史民俗博物館
- 横田健一 1971 『中臣氏と卜部』『日本書紀研究』第五冊 瑞穂書房

# 原始・古代船の推進具を考える(中)

～縄文時代から古墳時代を中心とした推進具集成～

江野 道和(伊都国歴史博物館)

## I はじめに

前回の「原始・古代船の推進具を考える(上)」では、研究史と權の分類までを行った。今回は、全国で出土した權(權状木製品を含む)・竿などの推進具の集成を行う。權は150遺跡からの出土資料

527例、竿は2遺跡からの2例を取り上げた。(上)で問題提起したとおり、權として認識されていないものや未報告のものを合わせると出土例は1000点を超えるものと考えられる。

原始・古代船の推進具一覧(縄文～古墳時代の權を中心に)

No	資料名	遺跡名	出土地点・遺構	所在地	時期	全長(cm)	断面	出典	備考
1	權	石川稲荷(19)号遺跡		北海道石狩市	縄文中期	160.8	六角ノギ		
2	權	高砂遺跡		北海道石狩市	縄文	156		48-1	
3	權	ムサシボシ(15)遺跡	1B4層	北海道下川町	弥生～奈良	(68.8)	十字ノギ	01-1	
4	權	三内丸山遺跡		古事郡古森町	縄文前期	150			
5	權	岩淵小舟遺跡	包含層	森吉郡森吉町	縄文前期				
6	權	亀ヶ岡遺跡	BZ主層	青森県つがる市	縄文晩期			48-2	
7	權	中川遺跡	中川地区	青森県八戸市	縄文晩期				
8	權	岩内遺跡	SD40 0042W	岩手県奥州市	縄文晩期			48-2	
9	權	中佐室遺跡	VI区 12層	宮城県仙台市	古墳前期	260.4	六角ノギ	04-1	L-912等
10	權	中佐室遺跡	VI区 15c層	宮城県仙台市	弥生中期	(116.8)	十字ノギ	04-1 48-3	L-1123等
11	權	中佐室南遺跡	VI区 15層	宮城県仙台市	弥生中期	(74.2)	十字ノギ	04-1 48-3	L-948等
12	權	市川遺跡	SD5093	宮城県多賀城市	古墳前期	175.2)		04-2 04-3 48-1	
13	權	市川遺跡	SD5093	宮城県多賀城市	古墳前期	(36.8)		04-2 04-3 48-1	
14	權	市川遺跡	SD5093	宮城県多賀城市	古墳前期	(25.8)		04-2 04-3 48-1	
15	權	交出島遺跡		宮城県仙台市	縄文晩期?	154		04-4 04-5	
16	權	金谷貝塚		宮城県仙台市	縄文	153.9	イヌガヤ	04-5	
17	權	吹田貝塚		宮城県仙台市	縄文	(62.5)		04-5 04-6	
18	權	葛原貝塚		秋田県角田市	縄文早期				
19	權	押出遺跡		山形県高森町	縄文前期			48-2	
20	權	鹿野遺跡		福島県二本町	縄文晩期末	(56.2)	カエデ	48-3	
21	權	大船江古墳遺跡		福島県福島市	古墳前期	(101.7)	十字ノギ	48-4	
22	權	下田遺跡		群馬県高田町	縄文後期		十字ノギ	01-1 48-2	
23	權	新原遺跡		群馬県高崎市	弥生前期～古墳前期	145	ムクロジ	48-4	
24	權	伊弉志尾原遺跡	第3区	埼玉県川口市	縄文晩期末～晩期	(44.5)	カヤ	11-1 48-2	
25	權	寿成遺跡	包含層	埼玉県さいたま市	縄文晩期中葉				
26	權	浅倉遺跡		埼玉県川口市	縄文晩期			48-5	
27	權	藤ヶ崎遺跡		埼玉県大宮市	縄文晩期			48-6	
28	權	藤ヶ崎遺跡		埼玉県大宮市	縄文晩期			48-6	
29	權	落合遺跡		千葉県千葉市	縄文後期				
30	權	大塚遺跡		千葉県葛城市	縄文後～晩期	(幅尺不詳)		12-1 48-4	
31	權	新沼田遺跡		千葉県船橋市	縄文後期	(幅尺不詳)		12-1 48-4	
32	權	多古田遺跡		千葉県船橋市	縄文晩期	(120)		04-5	
33	權	多古田遺跡		千葉県船橋市	縄文晩期	(15)		04-5	
34	權	多古田遺跡		千葉県船橋市	縄文晩期	(22.5)		04-5	
35	權	多古田遺跡		千葉県船橋市	縄文晩期	(62.8)	カヤ	04-5 48-4	
36	權	多古田遺跡		千葉県船橋市	縄文晩期	(24)	イヌガヤ	04-5 48-4	
37	權	多古田遺跡		千葉県船橋市	縄文晩期	(58.8)	イヌガヤ	04-5 48-4	
38	權	新田谷遺跡	第1・2トレンチ古灰砂層	千葉県鎌ヶ谷市	縄文前期			48-2	
39	權	新田谷遺跡		千葉県船橋市	縄文前期		六角ノギ	12-1 48-2	
40	權	新田谷遺跡		千葉県船橋市	縄文前期		イヌガヤ	12-1 48-2	
41	權	新田谷遺跡		千葉県船橋市	縄文前期		イヌガヤ	12-1 48-2	
42	權	船遺跡	SD396	千葉県君津市	古墳中～前期			12-2	
43	權	養生遺跡	大溝	千葉県東津市	古墳後期	154		12-3	
44	權	南宮古遺跡	A地区2・2 グリッド配設層	千葉県市川市	縄文			12-4 48-2	
45	權	原上遺跡		神奈川県平塚市	弥生中～後期	179.2	アマガサ歯盤	48-3	
46	權	池ノ遺跡	No1-A地点 弥生時代河辺遺	神奈川県厚木市	弥生中期			07-1	
47	權	河原貝塚	3B, 3C1B+	神奈川県小田原市	縄文前期			14-1 48-2	
48	權	大岩谷内遺跡		新潟県新潟市	縄文	(78)		15-1 15-2	
49	權	青田遺跡	2004 SX1583-1	新潟県加治川村	縄文晩期	128	スギ	15-3	240等
50	權	青田遺跡	26810 SD1420-E5c	新潟県加治川村	縄文晩期	(63.6)	スギ	15-4	241等
51	權	青田遺跡	19H4 SX1528-3	新潟県加治川村	縄文晩期	163	スギ	15-3	242等
52	權	青田遺跡	27C24 SD1420-21G	新潟県加治川村	縄文晩期	219.6	少	15-4	243等
53	權	青田遺跡	26B25 SD1420-E16B	新潟県加治川村	縄文晩期	(144.5)	少	15-4	244等
54	權	青田遺跡	23H11 SX1689-1	新潟県加治川村	縄文晩期	(66.0)	少	15-4	245等
55	權	千歳遺跡	第1区調査区	新潟県佐和田市	弥生前期				
56	權	江上A遺跡	SD01	高山山上市町	弥生前期			15-6 48-2	
57	權	下川原遺跡	A地区	高山山上市町	弥生前期	(48.8)	スギ	15-7	
58	權	熊加遺跡	SD65中層	石川県金沢市	弥生末～古墳前期	(57.3)	スギ	17-1	
59	權	熊加遺跡	SD67	石川県金沢市	古墳前期	(57.8)		17-2 48-1	
60	權	熊加遺跡	出層	石川県金沢市	古墳前期	(28)		17-2 48-1	

No	区別名	種別名	出上地点・道幅	所在地	時期	変位(cm)	測標	出典	備考
91	陸	河津川	川跡	石石島島支市	観文後遺跡				
92	陸	八日市地方遺跡	26式	石石島島小松市	弥生中前期前部～中葉	(27.0)		17-3	
93	陸	八日市地方遺跡	26A	石石島島小松市	弥生中前期前部～中葉	(38.2)	スギ	17-3	
94	陸	八日市地方遺跡	26式	石石島島小松市	弥生中前期前部～中葉	64.5		17-3	
95	陸	白江川河跡跡	川跡	石石島島小松市	弥生後遺			17-4	
96	陸	下代・高田遺跡		石石島島小松市					
97	陸	河津川	川跡	石石島島小松市	観文後遺跡	(63.4)	カヤ	17-6	48-7
98	陸	宮坂・大馬場遺跡	川跡	石石島島小松市	弥生中前期前部			17-6	
99	陸	鹿嶋遺跡	第4区西に後遺河川	石石島島小松市	弥生後遺	(36.0)	スギ	17-7	
70	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部	(78)	ヤチダモ	17-8	
71	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部	(57)	イヌヅサ	18-1	3173年
72	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	6312年
73	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	3019年
74	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	3284年
75	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	6186年
76	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部	99	アカガシ・スギ	18-1	8062年
77	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	9238年
78	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	8370年
79	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	8188年
80	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	8114年
81	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	8173年
82	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	6361年
83	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部	(84)	ヤチダモ	18-1	1206年
84	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	8036年
85	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	8433年
86	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	8224年
87	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	8174年
88	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	6611(イ)年
89	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	8351年
90	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	9097年
91	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	3187・3188
92	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	8064年
93	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	5067年
94	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	6403年
95	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	8002年
96	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	1132年
97	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	3363年
98	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	8227年
99	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	8081年
100	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	9475年
101	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	3084年
102	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	9419年
103	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	8522年
104	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	6361年
105	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	9313年
106	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	5082年
107	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	6133年
108	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	6218年
109	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	6061年
110	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	9035年
111	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	9045年
112	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	6342年
113	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	8068年
114	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	5010年
115	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部	(40)	ヤチダモ	18-1	3010年
116	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	3017年
117	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	3036年
118	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	3092年
119	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	3182年
120	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	1056年
121	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	8237年
122	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	8358年
123	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	6097年
124	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部	(80)	ヤチダモ	18-1	1223年
125	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部	1.68	ヤチダモ	18-1	3205年
126	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部	(60)	ヤチダモ	18-1	3043年
127	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	3136年
128	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	8324年
129	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	6133年
130	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	6092年
131	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	6090年
132	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部	1.34	ケンボナシ	18-1	6341年
133	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-1	3203年
134	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部	119	ケンボナシ	18-2	48-4
135	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部	(49)	スギ	18-2	48-4
136	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部	99.0	スギ	18-4	45-3 48-4
137	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部	109.2	スギ	18-4	48-4
138	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-5	48-2
139	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-5	48-2
140	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-6	48-2
141	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部	111	スギ	18-6	48-2
142	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部			18-7	48-2
143	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部	92.4	スギ	48-3	
144	陸	山崎遺跡	第3区南東部	石石島島小松市	弥生中前期前部	(146)	スギ	22-1	48-4

No	種別名	通称名	山上地点・通称	所在地	時期	長さ(cm)	種類	笛典	備考
145	横	大谷川通称		静岡県静岡市	古墳?	106.5		22-1	48-4
146	横	大谷川通称	2区5号	静岡県静岡市	古墳時期			48-2	
147	横	川谷通称	SR12601	静岡県静岡市	弥生中期～古墳前期			22-2	48-2
148	横	奥島通称	第1次調査	静岡県静岡市	弥生前期	99.3	スズ	22-3	
149	横	奥島通称		静岡県静岡市	古墳前期	62.5	カシ	22-3	
150	横	奥島通称	SR03	静岡県静岡市	弥生中期後半	(57.7)	サカサ	22-5	
151	横	藤原野通称		静岡県静岡市	弥生前期	96.6		48-3	
152	横	高江通称		静岡県静岡市	弥生中期	(38)	ササキ	22-6	48-1
153	横	高江通称		静岡県静岡市	弥生中期	(31.8)	サカサ	22-6	320
154	横	高江通称		静岡県静岡市	弥生中期	(52)	サカサ	22-6	321
155	横	高江通称		静岡県静岡市	弥生中期	(30.3)	サカサ	22-6	322
156	横	高江通称		静岡県静岡市	弥生中期	(31.5)	サカサ	22-6	323
157	横	高江通称		静岡県静岡市	弥生中期	(11.5)	アカガシ重編	22-6	324
158	横	高江通称		静岡県静岡市	弥生中期	(32.3)	サカサ	22-6	325
159	横	高江通称		静岡県静岡市	弥生中期	(30)	サカサ	22-6	326
160	横	高江通称		静岡県静岡市	弥生中期	(32.1)	アカガシ重編	22-6	327
161	横	高江通称		静岡県静岡市	弥生中期	(28.85)	ツブクワシ	22-6	328
162	横	高江通称		静岡県静岡市	弥生中期	(21.2)	アカガシ重編	22-6	329
163	横	高江通称		静岡県静岡市	弥生中期	(83.1)	タリ	22-6	330
164	横	高江通称		静岡県静岡市	弥生中期	(72.5)	ヒノキ	22-6	331
165	横	高江通称		静岡県静岡市	弥生中期	(70.2)	スズ	22-6	332
166	横	高江通称		静岡県静岡市	弥生中期	(36.6)	ヒノキ	22-6	333
167	横	高江通称		静岡県静岡市	弥生中期	(42.8)	ヒノキ	22-6	334
168	横	高江通称		静岡県静岡市	弥生中期	(23.2)	アカガシ重編	22-6	335
169	横	高江通称		静岡県静岡市	弥生中期	(11.8)	アカガシ重編	22-6	336
170	横	高江通称		静岡県静岡市	弥生中期	(78.5)	ヒノキ	22-6	337
171	横	高江通称		静岡県静岡市	弥生中期	(101.4)	サカサ	22-6	338
172	横	高江通称		静岡県静岡市	弥生中期	(86.4)	ササキ	22-6	339
173	横	高江通称		静岡県静岡市	弥生中期	(63.7)	スズ	22-6	340
174	横	高江通称		静岡県静岡市	弥生中期	(61.4)	アカガシ重編	22-6	341
175	横	高江通称		静岡県静岡市	弥生中期	(44.4)	アカガシ重編	22-6	342
176	横	高江通称		静岡県静岡市	弥生中期	(22.9)	コナラ	22-6	343
177	横	高江通称		静岡県静岡市	弥生中期	(92.5)	サカサ	22-6	344
178	横	高江通称	組合(15区)	静岡県静岡市	縄文後葉～晩前期	(118.1)	サカサ	22-6	345
179	横	伊豆通称	V4E-V4	静岡県静岡市	古墳前期	(67.5)	カシ	22-7	408
180	横	伊豆通称	大溝内	静岡県静岡市	古墳前期	(32.5)	カシ	22-7	409
181	横	伊豆通称	V8H-V3	静岡県静岡市	古墳前期	(18.8)	カシ	22-7	410
182	横	伊豆通称	A156S-V4	静岡県静岡市	古墳前期	(16.2)	カシ	22-7	411
183	横	伊豆通称	V4S-V4	静岡県静岡市	古墳前期	(35.6)	カシ	22-7	412
184	横	伊豆通称	V15E-V4	静岡県静岡市	古墳前期	(39.6)	カシ	22-7	631
185	横	梶子通称	B4E-DD	静岡県静岡市	弥生中期	145.7	ササキ	22-7	37
186	横	梶子通称	A7-DD	静岡県静岡市	弥生中期	(56.5)	ヒノキ	22-7	30
187	横	梶子通称	V4HG-V3	静岡県静岡市	弥生中期	(11.3)	カシ	22-8	42
188	横	梶子通称	榎野町通称(市-C区)	静岡県静岡市	弥生中期	101.6	カシ	22-8	43
189	横	梶子通称	V4期(区)内通称一帯	静岡県静岡市	弥生中期	(57.7)	タリ	22-8	44
190	横	梶子通称	V4期(区)内通称一帯	静岡県静岡市	弥生中期	(59.3)	カシ	22-8	45
191	横	梶子通称	V4期(区)内通称一帯	静岡県静岡市	弥生中期	(38.2)	カシ	22-8	46
192	横	梶子通称	榎野町(区)内通称一帯	静岡県静岡市	弥生中期	(45.3)	タリ	22-8	47
193	横	梶子北通称	川田通	静岡県静岡市	弥生中期	(74.2)	ヒノキ	22-8	
194	横	田代通称	SR45	静岡県静岡市	古墳中～後期			22-9	48-2
195	横	明通称	H5R2計解直上	静岡県静岡市	縄文後葉			22-10	48-2
196	横	山ノ花通称	大溝	静岡県静岡市	古墳中期	(21.2)	サハノキ	22-11	48-3
197	横	山ノ花通称	大溝	静岡県静岡市	古墳中期	(12.6)		22-11	81
198	横	山ノ花通称	大溝	静岡県静岡市	古墳中期	150		22-11	82
199	横	山ノ花通称	大溝	静岡県静岡市	古墳中期	150		22-11	83
200	横	山ノ花通称	大溝	静岡県静岡市	古墳中期	(67)		22-11	84
201	横	山ノ花通称	大溝	静岡県静岡市	古墳中期	(86)		22-11	85
202	横	西谷通称		静岡県静岡市	弥生後期	(23.9)		22-12	70
203	横	西谷通称		静岡県静岡市	弥生後期	(51)		22-12	71
204	横	西谷通称		静岡県静岡市	弥生後期	(48.3)		22-12	72
205	横	井川通称		静岡県静岡市	弥生中期後葉～後期	(11.7)		48-8	
206	横	井川通称		静岡県静岡市	弥生中期後葉～後期	(11.3)		48-8	
207	横	井川通称		静岡県静岡市	弥生中期後葉～後期	(11.5)		48-8	
208	横	井川通称		静岡県静岡市	弥生中期後葉～後期	(37)		48-8	
209	横	井川通称		静岡県静岡市	弥生中期後葉～後期	(40)		48-8	
210	横	井川通称		静岡県静岡市	弥生中期後葉～後期	(83)		48-8	
211	横	松戸川通称	川田通	静岡県静岡市	弥生前期			23-1	
212	横	一色川通称	SD-06	静岡県静岡市	弥生中期後葉	(109.8)	ヒノキ	23-2	
213	横	森中通称	川田通	静岡県静岡市	弥生後期～古墳前期	67.8	ヒノキ	48-4	
214	横	藤原野通称		静岡県静岡市	古墳			24-1	
215	横	滋賀町通称	豊田区 杖尾 杖一田	滋賀県大津市	縄文後葉	84.6		25-1	48-4
216	横	滋賀町通称	豊田区 杖尾 杖一田	滋賀県大津市	縄文後葉	76.2		25-1	48-4
217	横	大江山通称	大江山 古墳群 G-5(3号)	静岡県浜松市	古墳前期	(63.5)	スズ	25-2	48-4
218	横	大江山通称	大江山 古墳群 G-5(3号)	静岡県浜松市	古墳前期	(92.5)	アカガシ重編	25-2	48-4
219	横	大江山通称	大江山 古墳群 G-5(3号)	静岡県浜松市	古墳前期	(46.0)	スズ	25-3	
220	横	大江山通称	大江山 古墳群 G-5(3号)	静岡県浜松市	古墳前期	(89.4)	ササキ	25-4	1
221	横	大江山通称	大江山 古墳群 G-5(3号)	静岡県浜松市	古墳前期	(80.6)	ヒノキ	25-4	195
222	横	大江山通称	大江山 古墳群 G-5(3号)	静岡県浜松市	古墳前期	(31.7)	スズ	25-4	196
223	横	大江山通称	大江山 古墳群 G-5(3号)	静岡県浜松市	古墳前期	(82.5)	スズ	25-4	197
224	横	大江山通称	大江山 古墳群 G-5(3号)	静岡県浜松市	古墳前期	(10.4)	ヒノキ	25-4	265
225	横	大江山通称	大江山 古墳群 G-5(3号)	静岡県浜松市	古墳前期	(67.0)	ササキ	25-4	266
226	横	大江山通称	大江山 古墳群 G-5(3号)	静岡県浜松市	古墳前期	(53.6)	ササキ	25-4	337
227	横	大江山通称	大江山 古墳群 G-5(3号)	静岡県浜松市	古墳前期	(50.4)	ササキ	25-4	338
228	横	大江山通称	大江山 古墳群 G-5(3号)	静岡県浜松市	古墳前期	(49.7)	ササキ	25-4	339





No	資料名	通称名	出土地点・遺跡	所在地	時期	全長(cm)	材質	高典	備考
313	雄野井瓦葺跡	雄野井瓦葺跡	山田 総合層Ⅱ	雄野町山田寺	125.7	木片	25-11	15-2年	
314	雄野井瓦葺跡	雄野井瓦葺跡	山田 総合層Ⅱ	雄野町山田寺	150.2	木片	25-11	15-4年	
315	下長森跡	岡川跡跡下層		浪賀町山田寺	144		25-12	48-2年	
316	横江遺跡	熊川遺跡北西角土層		浪賀町山田寺			25-13	48-2年	
317	早稲遺跡	第9層遺跡		浪賀町北町・小町			25-14	48-2年	
318	松原内遺跡跡	1次 T2第2層		浪賀町高根寺	140		25-15	23-1年	
319	松原内遺跡跡	1次 T2第2層		浪賀町高根寺	169		25-15	28-3年	
320	松原内遺跡跡	1次 T2第2層		浪賀町高根寺	143		25-15	27-1年	
321	松原内遺跡跡	1次 T2第2層		浪賀町高根寺	143		25-15	27-2年	
322	松原内遺跡跡	1次 T3第3層		浪賀町高根寺	140		25-15	31-1年	
323	松原内遺跡跡	1次 T3第3層		浪賀町高根寺			25-15	31-4年	
324	松原内遺跡跡	1次 T3第3層		浪賀町高根寺			25-15	31-5年	
325	松原内遺跡跡	1次 T3第3層		浪賀町高根寺			25-15	31-6年	
326	松原内遺跡跡	1次 T3第3層		浪賀町高根寺			25-15	31-7年	
327	松原内遺跡跡	1次 T3第3層		浪賀町高根寺			25-15	32-6年	
328	松原内遺跡跡	2次 T1黒色粘土層上層		浪賀町高根寺	160		25-15	38-2年	
329	松原内遺跡跡	2次 T1黒色粘土層上層		浪賀町高根寺	147		25-15	38-3年	
330	松原内遺跡跡	2次 T1黒色粘土層上層		浪賀町高根寺	168		25-15	38-4年	
331	松原内遺跡跡	2次 T1黒色粘土層上層		浪賀町高根寺	163		25-15	38-5年	
332	松原内遺跡跡	2次 T1黒色粘土層上層		浪賀町高根寺	151		25-15	38-6年	
333	松原内遺跡跡	2次 T1黒色粘土層上層		浪賀町高根寺	147		25-15	38-7年	
334	松原内遺跡跡	2次 T1黒色粘土層上層		浪賀町高根寺	129		25-15	38-8年	
335	松原内遺跡跡	2次 T1黒色粘土層上層		浪賀町高根寺	136		25-15	38-9年	
336	松原内遺跡跡	2次 T1黒色粘土層上層		浪賀町高根寺	156		25-15	39-1年	
337	松原内遺跡跡	2次 T1黒色粘土層上層		浪賀町高根寺	148		25-15	39-2年	
338	松原内遺跡跡	2次 T1黒色粘土層上層		浪賀町高根寺	153		25-15	39-3年	
339	松原内遺跡跡	2次 T1黒色粘土層上層		浪賀町高根寺	145		25-15	39-4年	
340	松原内遺跡跡	2次 T1黒色粘土層上層		浪賀町高根寺	149		25-15	39-5年	
341	松原内遺跡跡	2次 T1黒色粘土層上層		浪賀町高根寺	133		25-15	39-6年	
342	松原内遺跡跡	2次 T1黒色粘土層上層		浪賀町高根寺	154		25-15	40-1年	
343	松原内遺跡跡	2次 T1黒色粘土層上層		浪賀町高根寺	143		25-15	40-2年	
344	松原内遺跡跡	2次 T1黒色粘土層上層		浪賀町高根寺	138		25-15	40-3年	
345	松原内遺跡跡	2次 T1黒色粘土層上層		浪賀町高根寺	143		25-15	40-4年	
346	松原内遺跡跡	2次 T1黒色粘土層上層		浪賀町高根寺	150		25-15	40-5年	
347	松原内遺跡跡	2次 T1黒色粘土層上層		浪賀町高根寺	168		25-15	40-6年	
348	松原内遺跡跡	2次 T1ス夕毛層		浪賀町高根寺	161		25-15	47-1年	
349	松原内遺跡跡	2次 T2ス夕毛層		浪賀町高根寺	161		25-15	47-2年	
350	松原内遺跡跡	2次 T1ス夕毛層		浪賀町高根寺	1119	木片	25-15	48-12年	
351	松原内遺跡跡	3次 T3ス夕毛層		浪賀町高根寺	113		25-15	48-1年	
352	松原内遺跡跡	3次 T3ス夕毛層		浪賀町高根寺	149		25-15	57-2年	
353	松原内遺跡跡	3次 T3ス夕毛層		浪賀町高根寺	150		25-15	57-3年	
354	松原内遺跡跡	3次 T4第2層		浪賀町高根寺	163		25-15	73-1年	
355	松原内遺跡跡	3次 T4第2層		浪賀町高根寺	138		25-15	73-2年	
356	松原内遺跡跡	3次 T4第2層		浪賀町高根寺	121		25-15	73-3年	
357	松原内遺跡跡	3次 T4第2層		浪賀町高根寺	117		25-15	74-1年	
358	松原内遺跡跡	3次 T4第2層		浪賀町高根寺	113		25-15	88-2年	
359	松原内遺跡跡	3次 T5第1層		浪賀町高根寺	152		25-15	100-2年	
360	松原内遺跡跡	3次 T6第1層		浪賀町高根寺	125		25-15	100-3年	
361	松原内遺跡跡	3次 T5第1層		浪賀町高根寺	140		25-15	100-4年	
362	松原内遺跡跡	3次 T4第2層		浪賀町高根寺	140		25-15	106-3年	
363	松原内遺跡跡	3次 T5第1層		浪賀町高根寺	152		25-15	106-4年	
364	松原内遺跡跡	3次 T5第1層		浪賀町高根寺	149		25-15	106-5年	
365	松原内遺跡跡	3次 T5第1層		浪賀町高根寺	134		25-15	106-6年	
366	松原内遺跡跡	3次 T5第2層		浪賀町高根寺	120		25-15	94-1年	
367	松原内遺跡跡	3次 T3第2層		浪賀町高根寺	140		25-15	94-2年	
368	松原内遺跡跡	3次 T5第2層		浪賀町高根寺	144		25-15	94-3年	
369	松原内遺跡跡	3次 T5第2層		浪賀町高根寺	150		25-15	94-4年	
370	松原内遺跡跡	3次 T5第2層		浪賀町高根寺	155		25-15	94-5年	
371	松原内遺跡跡	3次 T5第2層		浪賀町高根寺	124		25-15	94-6年	
372	松原内遺跡跡	3次 T5第2層		浪賀町高根寺	112		25-15	103-6年	
373	松原内遺跡跡	3次 T5第2層		浪賀町高根寺	122		25-15	103-7年	
374	松原内遺跡跡	3次 T6第2層		浪賀町高根寺	136		25-15	103-8年	
375	松原内遺跡跡	3次 T7第2層		浪賀町高根寺	124		25-15	118-1年	
376	松原内遺跡跡	3次 T7第2層		浪賀町高根寺	141		25-15	120-1年	
377	松原内遺跡跡	3次 T7第2層		浪賀町高根寺	163		25-15	120-2年	
378	松原内遺跡跡	3次 T7第2層		浪賀町高根寺	163		25-15	120-3年	
379	松原内遺跡跡	3次 T7第2層		浪賀町高根寺	158		25-15	120-4年	
380	松原内遺跡跡	3次 T7第3層		浪賀町高根寺	160		25-15	120-5年	
381	松原内遺跡跡	3次 T7第3層		浪賀町高根寺	170		25-15	120-6年	
382	松原内遺跡跡	3次 T7第3層		浪賀町高根寺	164		25-15	120-7年	
383	松原内遺跡跡	4次 T1ス夕毛層		浪賀町高根寺	143		25-15	131-1年	
384	松原内遺跡跡	7次 ス夕毛層		浪賀町高根寺	184.80	ヒノキ屑	25-15	138-6年	
385	松原内遺跡跡	7次 ス夕毛層		浪賀町高根寺	183		25-15	138-2年	
386	松原内遺跡跡	7次 ス夕毛層		浪賀町高根寺	1141	ヤブツバキ	25-15	138-3年	
387	松原内遺跡跡	7次 ス夕毛層		浪賀町高根寺	11129	木片	25-15	138-4年	
388	松原内遺跡跡	7次 ス夕毛層		浪賀町高根寺	11128	木片	25-15	138-5年	
389	松原内遺跡跡	7次 ス夕毛層		浪賀町高根寺	152		25-15	138-1年	
390	松原内遺跡跡	7次 ス夕毛層		浪賀町高根寺	172		25-15	138-2年	
391	松原内遺跡跡	7次 ス夕毛層		浪賀町高根寺	175		25-15	138-3年	
392	松原内遺跡跡	7次 ス夕毛層		浪賀町高根寺	170		25-15	138-4年	
393	松原内遺跡跡	7次 ス夕毛層		浪賀町高根寺	162		25-15	140-1年	
394	松原内遺跡跡	7次 ス夕毛層		浪賀町高根寺	155		25-15	140-2年	
395	松原内遺跡跡	7次 ス夕毛層		浪賀町高根寺	162		25-15	140-3年	
396	松原内遺跡跡	7次 ス夕毛層		浪賀町高根寺	163		25-15	140-4年	

No	品名	種別名	車上地点・道番号	所在地	種類	全長(cm)	電柱	出費	備考
397	線	松原内河原線	7次 スタタ直	滋賀県彦根市	橋文	699		25-15	140-5B
398	線	松原内河原線	7次 スタタ直	滋賀県彦根市	橋文	664		25-15	141-1B
399	線	松原内河原線	7次 スタタ直	滋賀県彦根市	橋文	603		25-15	141-2B
400	線	松原内河原線	7次 スタタ直	滋賀県彦根市	橋文	335.21		25-15	141-3B
401	線	元本寺線		滋賀県彦根市	橋文	1119.41		48-0	25-10
402	線	元本寺線		滋賀県彦根市	橋文	209		25-10	
403	線	高命寺線		滋賀県彦根市	橋文	133	スチ	25-1	48-1
404	線	中久保線	77MK-NKK 高路SD-6	滋賀県彦根市	橋文	325.7		26-1	48-4
405	線	中久保線	77MK-NKK 高路SD-6	滋賀県彦根市	橋文	105.5		26-1	48-4
406	線	南城井線	7ANE5地区 SR124中	滋賀県彦根市	橋文	338.21		26-2	48-4
407	線	東十川内線	7AN03地区 高路SD350B	滋賀県彦根市	橋文	1106.01		25-3 26-4 48-4	
408	線	高尾線	7ANFM地区 組合	滋賀県彦根市	橋文	94.0		26-5 48-4	
409	線	守屋線		滋賀県彦根市	橋文				
410	線	北山線	H地区 大湖SD01	滋賀県彦根市	橋文	154.0		26-6 48-4	
411	線	北山線	D地区 東22号片原橋	滋賀県彦根市	橋文	149		27-1 48-4	
412	線	西石田線	IAIトンチ 橋本線	滋賀県彦根市	橋文	164.4		27-2 48-4	
413	線	西石田線	IAIトンチ 河川	滋賀県彦根市	橋文	383.0		27-2 48-4	
414	線	西石田線	IAIトンチ 北本線	滋賀県彦根市	橋文	79.2		27-2 48-4	
415	線	西石田線	IAIトンチ 東本線	滋賀県彦根市	橋文	106.5		27-2 48-4	
416	線	鬼吹野線	7S調44SEK 第14区	滋賀県彦根市	橋文	443.0		27-3 49-1	269B
417	線	鬼吹野線	7次調44NE区 第15区	滋賀県彦根市	橋文	326.3		27-3 49-1	
418	線	鬼吹野線	7次調44NE区 第14区	滋賀県彦根市	橋文	462.8		27-3 48-4	270B
419	線	鬼吹野線	7次調55NW区 第14区	滋賀県彦根市	橋文	462.8		27-3 49-1	271B
420	線	徳川線	SR01	滋賀県彦根市	橋文	440		27-4	
421	線	寺方線	3M-14地区 東SD14下	滋賀県彦根市	橋文	453.4		27-5 48-4	
422	線	高反八丁線	3号-7地区 橋24	滋賀県彦根市	橋文	173.1		27-6 48-4	高反八丁線
423	線	高反八丁線	河川	滋賀県彦根市	橋文	362		27-7 48-2	
424	線	勝輪線	東地区西側第5区	滋賀県彦根市	橋文	27.8		27-8 48-2	
425	線	安堂線	橋3	滋賀県彦根市	橋文	112		27-9 48-2	
426	線	下石線	大湖SD1108	滋賀県彦根市	橋文	112		27-10 48-1	
427	線	有馬線	橋7	滋賀県彦根市	橋文	463.1		27-11	
428	線	海上線	橋SP075(B-3並列)	滋賀県彦根市	橋文	448.1		27-12 48-4	
429	線	新宮線	東本線	滋賀県彦根市	橋文	440		27-13	
430	線	砂谷線	津田1区 第1通車	滋賀県彦根市	橋文	77.2		28-1	W1608B
431	線	砂谷線	津田1区 第1通車	滋賀県彦根市	橋文	151.6		28-1	W1609B
432	線	砂谷線	津田1区 第1通車	滋賀県彦根市	橋文	35.4		28-1	W1610B
433	線	砂谷線	津田1区 第2通車	滋賀県彦根市	橋文	10.5		28-1	W1487B
434	線	砂谷線	津田1区 第3通車	滋賀県彦根市	橋文	249		28-1	W1312B
435	線	大池線	大池	滋賀県彦根市	橋文	104.2		28-2	
436	線	城島線	下池地区 第1トンチ直線 西島橋上	滋賀県彦根市	橋文	70.2		29-1 48-4	
437	線	津井・大湖線		滋賀県彦根市	橋文	48-2		48-2	
438	線	保井・宮古線	1.65-5-2	滋賀県彦根市	橋文	74		28-2 48-2	
439	線	保井線	11K SD1	滋賀県彦根市	橋文	28		30-2 48-1 48-4	
440	線	寺方線	橋6	滋賀県彦根市	橋文	1180		30-2 48-1 48-4	
441	線	安堂線	組合	滋賀県彦根市	橋文	30-2 48-1 48-4		30-2 48-1 48-4	
442	線	宮古上寺地線	橋	滋賀県彦根市	橋文	191.6		31-1	
443	線	宮古上寺地線	橋	滋賀県彦根市	橋文	129		31-1	高反八丁線
444	線	宮古上寺地線	橋	滋賀県彦根市	橋文	448.3		31-1	高反八丁線
445	線	神宮線		滋賀県彦根市	橋文	1130		31-2	
446	線	神宮線	SK-25B	滋賀県彦根市	橋文	1132		31-2	
447	線	神宮線		滋賀県彦根市	橋文	1180		31-2	
448	線	津井線	JSD-02_03	滋賀県彦根市	橋文	31-3		31-3	
449	線	津井線	組合	滋賀県彦根市	橋文	450.3		31-4	W135B
450	線	津井線	組合	滋賀県彦根市	橋文	451.3		31-4	W136B
451	線	津井線	組合	滋賀県彦根市	橋文	476.7		31-4	W137B
452	線	津井線	組合	滋賀県彦根市	橋文	493.3		31-4	W138B
453	線	津井線	組合	滋賀県彦根市	橋文	457.9		31-4	W139B
454	線	津井線	組合	滋賀県彦根市	橋文	444.3		31-4	W140B
455	線	津井線	組合	滋賀県彦根市	橋文	235.5		31-4	W141B
456	線	津井線	組合	滋賀県彦根市	橋文	119.4		31-4	W142B
457	線	津井線	組合	滋賀県彦根市	橋文	463.4		31-4	W143B
458	線	津井線	組合	滋賀県彦根市	橋文	461.7		31-4	W144B
459	線	寺方線	12CN第1区	滋賀県彦根市	橋文	31-5		31-5	
460	線	日立線	8-8 SDO1	滋賀県彦根市	橋文	175.6		31-6	
461	線	タナチュウ線	第1区E11	滋賀県彦根市	橋文	392.1		32-1	
462	線	タナチュウ線	N9C3 10	滋賀県彦根市	橋文	390.2		32-1	
463	線	タナチュウ線	N8C3 10	滋賀県彦根市	橋文	354.9		32-1	
464	線	タナチュウ線	第2区G11	滋賀県彦根市	橋文	459		不明	
465	線	タナチュウ線	第1区G14-2	滋賀県彦根市	橋文	533.9		32-1	
466	線	タナチュウ線	第1区G12-1	滋賀県彦根市	橋文	525.0		32-1	
467	線	タナチュウ線	第2区	滋賀県彦根市	橋文	1150.11		32-1	
468	線	鳥居大学線	第1区	滋賀県彦根市	橋文	178		25-10	
469	線	鳥居大学線	第2区	滋賀県彦根市	橋文	172		25-10	
470	線	鳥居大学線	第3区	滋賀県彦根市	橋文	147		25-10	
471	線	佐太線	第2区	滋賀県彦根市	橋文	449.5		32-2	
472	線	佐太線	第3区	滋賀県彦根市	橋文	427.2		32-2	
473	線	佐太線	第3区	滋賀県彦根市	橋文	335.8		32-2	
474	線	神宮線	第2区	滋賀県彦根市	橋文	48.9		32-3	
475	線	神宮線	第2区	滋賀県彦根市	橋文	58.6		32-3	
476	線	神宮線	第2区	滋賀県彦根市	橋文	437.7		32-3	
477	線	神宮線	第2区	滋賀県彦根市	橋文	167		32-3	
478	線	神宮線	第2区	滋賀県彦根市	橋文	129.8		32-3	
479	線	太子線	第1区	滋賀県彦根市	橋文	48.1		32-4	第76-1B
480	線	太子線	第2区	滋賀県彦根市	橋文	496		32-4	第76-2B

No	資料名	遺跡名	所在地	時期	全長(cm)	用途	器具	備考
481	穴子遺跡	遺物倉倉庫跡(下層)	鳥取県松江市	縄文前期中葉	877	32-4	---	767-3号
482	穴子遺跡	遺物倉倉庫跡(下層)	鳥取県松江市	縄文前期中葉	(75)	32-4	---	767-1号
483	穴子遺跡	遺物倉倉庫跡(下層)	鳥取県松江市	縄文前期中葉	(58)	32-4	---	767-2号
484	穴子遺跡	遺物倉倉庫跡(下層)	鳥取県松江市	縄文前期中葉	(37)	32-4	---	767-3号
485	堀野西遺跡	B-BW4(10)跡	鳥取県出雲市	縄文前期後葉~古墳前期	(74.5)	スズ	---	32-5
486	堀野西遺跡	B-BW4(17)跡	鳥取県出雲市	縄文前期後葉~古墳前期	36.8	---	---	32-6
487	堀野西遺跡	B-BW4(17)跡	鳥取県出雲市	縄文前期後葉~古墳前期	30.6	---	---	32-6
488	堀野西遺跡	B-BW4(大溝下層)	鳥取県出雲市	縄文終末~古墳前期	(29.3)	スズ	---	32-5
489	堀野西遺跡	B区14層	鳥取県出雲市	縄文中期~古墳前期	(43.0)	2号銅貨1枚	---	32-5
490	堀	互瓦北遺跡	鳥取県山雲市	---	92	48-1	---	魚の御願あり
491	堀	大崎遺跡	鳥取県島山町	古墳~	78.0	アカガシ遺物	32.6	---
492	堀	南方(清生台)遺跡	岡山県岡山市	縄文中期	(106.5)	---	33-1	340号
493	堀	南方(清生台)遺跡	岡山県岡山市	縄文中期	---	---	33-1	341号
494	堀	南方(清生台)遺跡	岡山県岡山市	縄文中期	(73.4)	---	33-1	342号
495	堀	南方(清生台)遺跡	岡山県岡山市	縄文中期	(62.3)	---	33-1	343号
496	堀	南方(清生台)遺跡	岡山県岡山市	縄文中期	(27.8)	---	33-1	344号
497	堀	南方(清生台)遺跡	岡山県岡山市	縄文中期	(42.55)	---	33-1	345号
498	堀	南方(清生台)遺跡	岡山県岡山市	縄文中期	(34.7)	---	33-1	346号
499	堀	南方(清生台)遺跡	岡山県岡山市	縄文中期	(15.3)	アカガシ遺物	33-1	347号
500	堀	津島遺跡	岡山県岡山市	縄文後葉	(55)	---	33-2	---
501	堀	津島遺跡	岡山県岡山市	縄文後葉	(78)	---	33-2	---
502	堀	下市南遺跡	岡山県高梁市	縄文後葉	107.0	---	48-3	---
503	堀	白鷺-松林遺跡	SD中層	香川県高松市	縄文後期~古墳前期	217.5	フナコシイモ	37-1
504	堀	山田中-中村遺跡	SH2C	香川県高松市	古墳中期	(100.3)	---	37-2
505	堀	赤坂寺遺跡	白雲遺跡跡(下層)	香川県高松市	(10.8)	---	---	37-48.9
506	堀	赤坂寺遺跡	白雲遺跡跡(下層)	香川県高松市	縄文後期	174.5	---	37-48.9
507	堀	伊豆遺跡	第4区遺跡 SX12	福岡県福岡市	縄文前期後葉~中葉前期	138.7	シイ	40-1 40-2
508	堀	船六町ツギシ遺跡	第3号土坑	福岡県福岡市	縄文後期前期	109.7	鹿角材	40-3
509	堀	船六町ツギシ遺跡	第4号土坑	福岡県福岡市	縄文	(66.2)	トビシタナク	40-3
510	堀	長行遺跡	福岡県北九州市	縄文前期末	101.4	カシ	40-4 48-3	---
511	堀	長行遺跡	福岡県北九州市	縄文前期末	101.1	カシ	40-4	---
512	堀	長行遺跡	福岡県北九州市	縄文前期末	105.3	カシ	40-4	---
513	堀	長行遺跡	福岡県北九州市	縄文前期末	(98)	カシ	40-4	---
514	堀	長行遺跡	福岡県北九州市	縄文前期末	(90)	カシ	40-4	---
515	堀	長行遺跡	福岡県北九州市	縄文前期末	(82)	カシ	40-4	---
516	堀	長行遺跡	福岡県北九州市	縄文前期末	94.8	カシ	40-4	---
517	堀	長行遺跡	福岡県北九州市	縄文前期末	100.7	カシ	40-4	---
518	堀	長行遺跡	福岡県北九州市	縄文前期末	99.3	カシ	40-4 48-3	---
519	堀	長行遺跡	福岡県北九州市	縄文前期末	100.3	カシ	40-4	---
520	堀	金山遺跡	V区 B91 東陽6層下層~7層	福岡県北九州市	縄文終末~古墳前期	72.7	アカガシ遺物	40-5 40-6
521	堀	伊豆遺跡	1E4a-4b層	福岡県北九州市	縄文前期末~中期	82.4)	---	40-7
522	堀	伊豆遺跡	1E4a-4b層	福岡県北九州市	縄文前期末~中期	(13.8)	---	40-7
523	堀	上郷寺遺跡	I区南層	福岡県北九州市	縄文前期末~後葉前期	(86.2)	---	40-8
524	堀	上郷寺遺跡	OMR区-第8区	福岡県北九州市	縄文前期~中期	100.8	---	40-8
525	堀	藤原遺跡	ISX001	福岡県北九州市	縄文前期末~古墳前期	(75)	---	40-9
526	堀	東名遺跡	佐賀県佐賀市	縄文早期	116	---	41-1	---
527	堀	里田原遺跡	長崎県平戸市	縄文早期	108	---	48-3	---
528	堀	樽町遺跡	III-2区	熊本県玉名市	古墳前期	90	カヤ、ツバシヤ	43-1
529	堀	下藤原遺跡	III区第12層	大分県大分市	縄文前期後葉~中葉期	(117)	---	44-1

凡例 全長の( )は完形でないものの現存長、出土の先後の番号は都道府県番号または参考文献

備考の※は報告書等に記載された番号

・報告書等

- 【北海道01】 財団法人北海道埋蔵文化財センター「千歳市 ユカンシC15遺跡」(2000) 【宮城県04】 工藤哲司編「中在家南遺跡」(仙台市教育委員会、1996) 2. 佐久間光平ほか「市川橋遺跡の調査」(2000) 3. 吉野武「市川橋遺跡」(2003) 4. 大友今朝治・遠藤久七・角田市の文化財9(角田市教育委員会、1979) 5. 田中剛和「柴田町金谷貝塚出土の根状木製品」(仙台市博物館調査報告書)第9号(1988) 6. 志間泰治「豆理の原始古代」(巨野町史)(巨野町史編纂委員会、宮城県豆理町豆理町、1975) 【福島県07】 福島県立博物館いかにの史(1996) 【埼玉11】 財団法人埼玉埋蔵文化財調査事業団「東北新幹線関係埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ 赤羽-伊奈駅敷跡」(1984) 【千葉12】 三田史学会「加茂遺跡 千葉県加茂佐木舟出土遺跡の研究」(1952) 2. 千葉県埋蔵文化財センター「国道127号埋蔵文化財報告書」(2004) 3. 益根重隆「上総青生遺跡」(中央公論美術出版、1980) 4. 千葉県文化財センターほか「多古町南青生遺跡」(1991) 【神奈川14】 工川文化財研究所「羽根尾貝塚」(2003) 【新潟県15】 新潟県埋蔵文化財センター「平成19年度 大沢谷内北遺跡 現地説明会」(2007) 2. ジャパン通信情報センター「文化財発掘出土情報08年1月号」3. 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団「シノボクシムよみかえる青田遺跡」資料集 川辺の縄文集巻(2002) 4. 新潟県教育委員会「日本海沿岸東北自動車道開通関係発掘調査報告書Ⅱ 青田遺跡」(2004) 5. 新潟県教育委員会「千歳」(1953) 6. 富山県埋蔵文化財センター編「北陸自動車道遺跡調査報告」上野町 木製品・漆槌編(木文)・上市町 木製品・漆槌編(国版)(1981) 7. 富山県埋蔵文化財センター編「富山県研究所下村 下村加茂遺跡発掘調査報告」(下村教育委員会、1999) 【石川17】 伊藤善文「飯田遺跡」(石川県立埋蔵文化財センター、1991) 2. 石川県教育委員会(財)石川県埋蔵文化財センター「金沢市飯田西遺跡群Ⅲ」(金沢市飯田西遺跡群Ⅲ) 2. 松本正博「木製品」(八日市市教育委員会)(石川県小浜市教育委員会、2003) 4. (財)石川県埋蔵文化財センター「いしかわの遺跡」15(2003) 5. ジャパン通信情報センター「月刊文化財発掘出土情報」99年4月号 6. 石川県立埋蔵文化財センター「吉崎・次場遺跡」(1988) 7. 石川県埋蔵文化財センター「筒橋遺跡」(1998) 8. 石川県能登町教育委員会・真論遺跡発掘調査「真論遺跡」(1986) 【福井県18】 網谷克彦「鳥浜貝塚研究Ⅱ」(福井県立歴史民俗資料館、1996) 2. 福井県教育委員会「鳥浜貝塚-縄文前期を主とする低湿度遺跡の調査Ⅱ」(1979) 3. 福井県三方町教育委員会「土器遺跡」(2001) 4. 福井県三方町教育委員会「土器遺跡」(1990) 5. 福井県三方町教育委員会「土器遺跡-北寺遺跡」(1992) 6. 福井県三方町教育委員会「旧名遺跡」(1988) 【静岡県22】 静岡県埋蔵文化財調査研究所「大谷川V」(1989) 2. 静岡県埋蔵文化財調査研究所「川合遺跡」(1994) 3. 静岡県立登

- 呂布博物館「登呂遺跡出土資料目録 写真編」(1989) 4. 静岡縣埋藏文化財調査研究所「瀬名遺跡Ⅴ」(1996) 5. 産教文化財調査研究所編「瀨名川遺跡」(2000) 6. 中川律子「角江遺跡Ⅱ」(財団法人静岡県埋藏文化財研究所、1986) 7. 浜松市博物館編「伊場遺跡遺物集Ⅱ」(浜松市教育委員会、2002) 8. 浜松市博物館編「梶子遺跡Ⅱ 本文編」(財団法人浜松市文化協会、1994) 9. 静岡縣埋藏文化財調査研究所「須武宮・西浦遺跡」(2000) 10. 静岡縣埋藏文化財調査研究所「町田遺跡」(1998) 11. 浜松市博物館編「山ノ花遺跡 木器編」(財団法人浜松市文化協会、1998) 12. 村本重「下谷遺跡」(静岡県小笠部浜町教育委員会、2001) 【未知図23】1. 未知図教育委員会編「朝日遺跡」(第一法規出版株式会社、1982) 2. 財団法人未知図埋藏文化財センター「一色青海遺跡」(考古編) (1998) 【三重県24】1. 三重県埋藏文化財センター「福田遺跡第3次発掘調査概報」(1996) 【滋賀県25】1. 田辺昭三・加藤修・江口千恵子他「湖西線関係発掘調査報告書」(滋賀県教育委員会、1973) 2. 中井均「江内湖遺跡発掘調査報告書」(米原町教育委員会、1987) 3. 中井均・岡田男他「江内湖遺跡(河町地区)発掘調査報告書」(米原町教育委員会、1988) 4. 滋賀県教育委員会事務局文化財保護課・財団法人滋賀県文化財保護協会「江内湖遺跡Ⅰ」(2007) 5. 兼重保明・堀内宏司他「森浜遺跡発掘調査報告書」(滋賀県教育委員会、財)滋賀県文化財保護協会、1978) 6. 兼重保明・吉谷芳幸・山口順子「正伝寺南遺跡(北地区)の調査」(高島バイパス新旭町内遺跡発掘調査概要) (滋賀県教育委員会・財)滋賀県文化財保護協会、1984) 7. 清水高「高島バイパス新旭町内遺跡発掘調査概要」(滋賀県教育委員会・財)滋賀県文化財保護協会、1986) 8. 滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会「緊急地域域川特別交付金事業に伴う出土文化財管理業務報告書」(2002) 9. 滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会「弁天島遺跡」(2002) 10. 財団法人滋賀県文化財保護協会・滋賀県立安土城考古博物館「丸木舟の時代一つふ湖と古代」(2007) 11. 滋賀県教育委員会事務局文化財保護課・財)滋賀県文化財保護協会「長岡寺」(長岡寺) (1998) 12. 守山市教育委員会「下長遺跡発掘調査報告書Ⅱ」(2001) 13. 滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会「横江岸遺跡」(滋賀県発掘調査報告書Ⅱ) (1986) 14. 滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会「琵琶湖北東部の湖底・湖岸遺跡」(2003) 15. 滋賀県教育委員会文化庁文化財保護課・財団法人滋賀県文化財保護協会「松原内湖遺跡発掘調査報告Ⅱ」(1992) 【京都府26】1. 京都府「史料京都の歴史」第2巻、考古(1983) 2. 長谷川浩一「因下多楽村・松崎俊郎他「長岡京跡左京第82次(7ANEIS地区)」(向日市埋藏文化財調査報告書)10(向日市教育委員会、1983) 3. 竹原一彦「長岡京跡左京第36次(7AND-Ⅱ)発掘調査報告」(長岡京)第18号(長岡京発掘調査研究所、1980) 4. 松崎俊郎「乙訓地区弥生・古墳時代木器集成一編新編今中心として」(長岡京古文化叢書)中山修一先生古蹟記念事業、1986) 5. 山中卓・松崎俊郎他「鴨田遺跡」(向日市教育委員会、1987) 6. 石井清司・田代大・中野央亮「北倉岐遺跡」(財)京都府埋藏文化財調査研究センター、1985) 【大阪府27】1. 堀江門也・中西浩人他「瓜生堂」(大阪府教育委員会・財)大阪文化財センター、1980) 2. 村上年生・石神幸子「西岩田」(大阪府教育委員会・財)大阪文化財センター、1984) 3. 宇本隆博他「亀虎川の木製遺物」第4冊(財)東大阪市文化財協会、1987) 4. 大阪府文化財調査研究センター「池島・福万寺遺跡発掘調査概要」28(2002) 5. 宮崎幸史他「亀井遺跡2」(財)大阪文化財センター、1984) 6. 塩山則行「高宮八丁遺跡」(奈良市教育委員会、1987) 7. 吹田市立博物館「吹田市五反島遺跡発掘調査報告書 遺物編」(2003) 8. 榊原照男「穂積遺跡」(新修吹田市史第4巻考古) (2005) 9. 相原市文化研究会「安堂遺跡」(1987) 10. 西村多輝「下田遺跡」(財団法人大阪文化財調査研究センター、1996) 11. 堺市立埋藏文化財センター「堺市文化財調査概要報告」69(1998) 12. 小野久美・奥野節子「池上遺跡」第4分冊の1-2 木器編(財)大阪文化財センター、1983年) 13. 大阪府教育委員会・財団法人大阪文化財センター「海家(その2)」(1984) 【兵庫県28】1. 鈴木安二編「狩伏遺跡」(兵庫県教育委員会、2000) 2. 兵庫県教育委員会「播磨・長崎遺跡」(1978) 【奈良県29】1. 清水真一「桜井市城島遺跡-外山下田地区発掘調査報告書」(桜井市教育委員会、1991) 【和歌山県30】1. 久貝健・川崎豊史「東郷遺跡発掘調査概報」(新宮市遺跡調査会、1987) 2. 安井昌三・伊藤久爾他「南紀市本 登見遺跡」(登見遺跡発掘調査報告書刊行会、1969) 【鳥取県31】1. 北浦弘人「備作のはじまり 狩猟と漁撈」(鳥取県の考古学第2巻 弥生時代Ⅰ 備作とくらら) (鳥取県埋藏文化財センター、2006) 2. 財団法人鳥取県教育文化財団「岡田遺跡」(1992) 3. 鳥取県教育文化財団「井出遺跡」(1993) 4. 財団法人鳥取県教育文化財団・鳥取県埋藏文化財センター「桂見遺跡」(1996) 5. 鳥取県教育文化財団「布野遺跡発掘調査報告書」(1981) 6. 財団法人米子市教育文化事業団「目久美遺跡Ⅴ-VI」(1997) 7. 鹿島町教育委員会「新宮川河川改良工事に伴うテテウ遺跡発掘調査報告書Ⅰ」(1979) 2. 鹿島町教育委員会「佐太溝遺跡Ⅱ」(1997) 3. 鹿島町教育委員会「下谷遺跡-榊田遺跡」(1994) 4. 松江市教育委員会・財団法人松江市教育文化振興委員会「手ふた島遺跡」(1997) 【岡山県32】1. 岡山県教育委員会「姫原西遺跡」(1999) 6. 斐川町教育委員会「大倉川遺跡 榊田原Ⅰ遺跡」(1997) 【岡山県33】1. 瀬川山・安川真「南方(済生会)遺跡-木器編」(岡山市教育委員会、2005) 2. 岡山県古代古墳文化財センター「津島遺跡Ⅳ」(岡山県教育委員会、2003) 【香川県37】1. 高松市教育委員会ほか「日暮・松林遺跡(済生会)」(2003) 2. 財団法人香川県埋藏文化財調査センター「前田山-中村遺跡」(香川県教育委員会・財団法人香川県埋藏文化財センター-建設省西四国地方建設局、1995) 3. 福岡市立資料館「古代の福岡」(福岡市・福岡市教育委員会、1988) 【福岡県40】1. 方武治「倉里9」(福岡市教育委員会、2003) 2. 下村哲「倉里遺跡」(福岡市教育委員会、1995) 3. 福岡市教育委員会「拾六町ツイジ遺跡」(1983) 4. 北九州市教育文化事業団「長行遺跡」(1983) 5. 第13回 出土木器研究会資料(出土木器研究会開催事務局、財)北九州市芸術文化振興財団埋藏文化財調査室、推定町教育委員会、2001) 6. 北九州市教育文化事業団埋藏文化財調査室「金山遺跡Ⅰ-V区」(1989) 7. 財団法人北九州市芸術文化振興財団埋藏文化財調査室「冷水遺跡第3次・峠遺跡第3次・長野アヲ遺跡(6D-6E区)」(2005) 8. 西田大輔「夜白・三代地区遺跡群 第Ⅱ編」(新宮町教育委員会、1994) 9. 太平市市教育委員会「太平町-夜野地区遺跡群ⅤⅠ-ⅤⅡ川遺跡第1次調査」(1996) 【佐賀県41】1. (株)ジャパン通信情報センター「文化財発掘出土情報 2007.1」【熊本県43】1. (財)肥後考古学会第209回 例会発表資料(1996) 【大分44】1. 大分県教育委員会「下都苗遺跡」(1989)

・参考文献(48)

1. 埋藏文化財研究会・第56回埋藏文化財研究集會実行委員会「第56回埋藏文化財研究集會」古墳時代の海人集団を再検討する」(2007) 2. 吉田知史「日本原始・古代の塚の研究」(特筆山論叢)39(2005) 3. 山田昌久編「考古資料大観8」(小学館、2003)
4. 上原真人編「木器集成別録 近畿原始編」(奈良国立文化財研究所、1993) 5. 東北歴史博物館編「縄文時代の日本列島」(2000)
6. 渡辺誠「縄文時代の漁業」(1973) 7. 出口昌子「丸木舟—もとの人間との文化史98」(法政大学出版局、2001) 8. 埋藏文化財研究会「舟の生産利用」(1986) 9. 吉田知史「海通寺西遺跡—木器の意義」(香川考古石) (香川考古学研究所、2004)

## 1. はじめに

### ●人と鉄との出会い

最初に人類が鉄と出会ったのは、空から降ってきた隕鉄が最初だったという説が有力ですが、詳しいことは分かっていません。隕鉄とは隕石の一部で、鉄にニッケルが混じったものです。

最古の鉄は、前3000～2000年頃のもの、イラン・イラク・トルコなど西アジアを中心に発見されています。鉱石を粉末にして顔料にしたり、玉などの装身具の素材に用いられました。

その後、鉄を人工的につくる技術を生み出したのはヒッタイト帝国(紀元前1900年ごろ～1200年ごろ)であったとされています。紀元前14世紀ごろから武器に使われるようになったことから、このころ人工の鉄が作られたのではないかと考えられています。ヒッタイト帝国が滅んだ後、製鉄、加工技術が広くヨーロッパや東アジアまで徐々に伝わったようです。

### ●東アジアの古代鉄

アジアでは、鉄文化の発祥の地は中国でした。最古の鉄器は、中国の殷・周代にみられ、河北省台西村の殷中期の墳墓から出土した青銅製の鉞(えつ)の刃部に鉄の使用された鉄刃銅鉞などがあります。戦国末期になると、河北省燕下都44号墓出土の鉄戟・鉄矛・鉄剣などのように鉄製武器類が急増します。前漢中期以降になると長い大刀など優秀な鉄製武器も誕生し製鉄技術も向上しました。さらに後漢に入ると、卅鍊・五十鍊・百鍊と記載された紀年銘をもつ鉄剣・鉄刀がみられ、百鍊鋼といわれる反復鍛打の鋼が出現しました。

朝鮮半島では、戦国時代の終わりごろ、燕の領域から、鉄器が朝鮮半島西北部～東北部へとひろまり、ついで朝鮮半島南部まで波及していったようです。紀元前108年漢の武帝による楽浪郡ほか3郡の設置によって、漢代の鉄が直接朝鮮に入るようになりました。

その後、青銅製の武器が鉄製の武器に交替していきました。

『魏志東夷伝弁辰条』には「出回鉄、韓穢倭皆從取之……又以供給二郡」の記事があり、朝鮮半島の鉄製品や素材などがわが国にもたらされたことがわかります。

## 2. 鉄の伝来と糸島地方

### ●わが国最古の鉄

わが国ではじめて鉄が登場したのは弥生時代初期の段階といわれています。

二丈町の石崎曲田遺跡で昭和55年に行われた発掘調査では、弥生時代早期(約2400年前)の集落が発見され、集落を覆っていた遺物包含層の中から一片の鉄が出土したのです。幅4cm、厚さ4mmほどの鉄の板です。本来はもっと大きな鉄製品であったものが、たびたび加工されたり磨かれたりして、小さな鉄片になったと考えられています。これがわが国で発見されている最古の鉄製品です。おそらく朝鮮半島から米つくりの技術とともにもたらされたと考えられます。

熊本県の斉藤山遺跡でも同じように弥生時代初期の鉄斧の転用品が発見されていますので、鉄が弥生時代初期の段階では、すでに北部九州では鉄を知っていた可能性が高いと考えられます。

## 3. 鉄器の普及

### ●鉄の急速な普及

弥生文化の到来とともにいち早く渡ってきた鉄も、弥生時代の前半期には、ほとんど列島では広まることはなかったようです。供給元である朝鮮半島においても、鉄が十分に普及していなかったため、まだまだ玄界灘をわたって供給された鉄の量にはごくわずかであったでしょう。

もたらされた鉄も、貴重であったため、北部九州のごく限られた範囲での流通にとどまっていたのかもしれない。このころの利器は磨製石

器が中心でした。

ところが、弥生時代の半ばを過ぎると石器の出土割合が減少します。おそらく鉄器が急速に浸透し、鉄器の需要が急速に減少したことが要因と考えられます。

しかし、当時の集落を調査してもなかなか鉄器にお目にかかることはありません。おそらく、石器は破損すると廃棄されたのに対し、鉄器はリサイクルされ、小さく朽ちてしまうまで大切に利用されたのではないのでしょうか。

このころの当時の鉄器の普及状況を示す間接的な証拠を斧の柄に見ることができます。

弥生時代中期後半から後期初頭の木製品が大量に出土した上籬子遺跡では、出土した 本の斧柄のうち、大半は鉄斧を装着するものでした。鉄斧が普及がしていたことを裏付けます。

#### ●工具から始まった利器の鉄器化

弥生時代中ごろの鉄は主に斧やヤリガンナなどの木工具として多く用いられたようです。伊都国の王都である三雲・井原遺跡でも、弥生時代後期の遺構から鉄斧、ヤリガンナ、槌、槌状の鉄製品などが出土しています。

当時は集落規模の拡大、農地の開発などに伴う、河川や水路の整備など治水管理の強化のために木製の農耕・土木具の需要が飛躍的に拡大し、木材加工の必需品である工具の鉄器化が必要だったのであったのだらうと考えています。

#### ●輸入に依存していた弥生時代の鉄

しかし、鉄は既製品が朝鮮半島からもたらされたものが大半でした。つまり、鉄は交易によってもたらされた輸入品であったのです。

最近の調査で、長崎県壱岐市の原の辻遺跡から、鋳造鉄斧などの鉄製工具、さらにはそれを転用して製作された製品が数多く出土しています。鉄器が壱岐を経由して伊都国に持ち込まれた可能性が高いことがわかってきました。

#### ●儀式の道具から威信財へ

評価が高まった鉄製品は、次第に集落の儀式や

葬儀の際に使われる祭具として用いられるようになりました。

井原塚遺跡では、集落の長と考えられる大型の墓棺の縁にめぐらされた周溝から鉄斧と鉄鎌が出土しています。

弥生時代後期になると、鉄製品が副葬品として王墓などの有力層に納められるようになります。江戸時代に発見された井原銀溝遺跡では、「刀剣の類」「鉄の鍮のようなもの」など、鉄製品が副葬されたことが記録されています。

さらに、平原王墓からは木棺の棺上に鉄製の素環頭大刀が副葬されていました。

ちなみに、上町向原遺跡で出土した素環頭大刀も有名です。全長が約120cmあり弥生時代の大刀としては国内最長です。「魏志倭人伝」によると魏の皇帝は銅鍮などとともに卑弥呼に「五尺刀」を2本与えています。当時の一尺は24cmですから、120cmほどになります。まさにその長さは五尺。卑弥呼がもらった刀は、まさにこのような刀であったのかもしれませんが。

#### 4. 鉄の生産・加工の開始

##### ●糸島地方における鉄生産・加工のはじまり

では、糸島地方で鉄の生産・加工がはじまったのはいつ頃からなのでしょう。鉄生のリサイクルは、弥生時代からすでに行われていたことがわかっていますが、その後、「魏志東夷伝」弁辰の条にみられるように、鉄の原材料を朝鮮半島から輸入し、それを加工して新たな鉄製品を作り出す段階に人って行ったと考えられます。

今宿大塚遺跡では、弥生時代終末の堅穴住居から鉄鏃とともに鉄片が多く出土し、鉄製品の加工に携わっていた可能性が高いことがわかりました。また、長野川の旧河口から南に1kmほど上流にさかのぼったところにある東下田遺跡では古墳時代中期の堅穴住居から鉄鏃が出土しました。一緒に出土した5世紀の須恵器にも鉄鏃が付着していました。おそらく鉄を加工作業中に何らかの原因で鉄鏃が付着したものと考えられます。

この遺跡では、このほかに朝鮮半島製の陶質土器や、朝鮮半島南部でみられる水鳥の形をした



酒器も出土していて、朝鮮半島との交易や交渉にかかわっていた集落と考えられ、鉄の加工にも関わっていた可能性があります。

さらに、古墳時代後期になると鉄生産に関する資料が増加します。

福岡市の元岡石ヶ元古墳群からは鉄の生産加工に関連する遺物が数多く副葬されていました。

12号墳では、金鉗や、鉄錘、金床が出土し、1、2、6、11、28号墳からは鉄滓も出土しました。6号墳では、砂鉄精錬滓も出土し、5、27、33号墳からは砥石も出土しています。

これらの出土品から、古墳の被葬者が、鉄の生産や加工に関わっていた可能性が高いと考えられます。特に6号墳では、新羅系の壺、28号墳では金層ガラスも副葬されており、鉄の生産に朝鮮半島から渡来してきた人々に関わっていたことが推測できます。

#### ●鉄生産の本格化

このような、古墳時代後期の製鉄関連の遺物が多数出土する例は全国的にも珍しく、糸島地方では鉄生産・加工が積極的に進められていた可能性が高いのです。

特に元岡石ヶ元古墳群では、計7点の鍛冶具が出土しており、一帯が鉄生産・加工の拠点であった可能性が高いともわれています。

また、今宿周辺では、6世紀前半築造の今宿大塚古墳の墳丘盛土中から鉄滓が出土し、近隣の徳永古墳群、相原古墳群、鍋崎古墳群からも精錬、鍛冶滓が副葬されており、これら古墳群の造営集団も鉄生産にかかわっていた可能性が高いと考えられています。

#### ●未発見の古墳時代の生産遺構

しかし、残念ながら、当時の鉄の生産を具体的に示す生産工房などは確認されていません。生産工房の規模が小規模にとどまっていたためか、あるいは遺跡の立地や、遺構の構造が想定と違うものである可能性もあります。しかし、鉄滓が確認されている以上、出土地の周辺では将来必ず生産遺構が発見されるだろうと期待しています。

#### ●初期鉄生産の担い手

元岡古墳群では6号墳をはじめ、朝鮮半島系陶質土器が数多く出土しています。また、19、28号墳では、金層ガラス玉が出土しています。さらに、大陸系の武器や武具なども出土しています。

同じような現象は、隣接する室見川に志願の古墳群にもみられ、鉄滓を多く副葬することで知られるこの地域でも、多くの半島系の遺物が出土しているのです。このことから、古墳時代の当地域の鉄の生産には、渡来系の人々の関与が推測されます。

また、元岡遺跡第7次調査の池遺構からは「壬辰年韓鐵□□」「里長」などと記された木簡が出土しています。「壬辰」年は一緒に出土した土器から天平勝宝4(752)年と考えられています。「韓鐵」について、次のような奥野正男先生の興味深い指摘があるので、紹介します。

〔前略〕特に私は□□の断簡から「様相韓鐵師(からかなじ)・韓鍛冶(からかぬち)なる古語を連想する。また「韓鐵」といえば、「古事記」応神天皇段に、馬を連れてきた阿智吉師、論語十巻と千字文をもたらした和邇吉士師の渡来をのべたあとに、「また手人韓鍛、名は卓素(たくそ)、異服・西素(さいそ)二人を奉りき」とある。「古事記」は渡来系製鉄工人のことを「韓鍛」と呼んでいたのである。

また元岡製鉄遺跡から出土した別の木簡には「嶋郡」の文字のあるものもあった。

(中略)

この元岡遺跡のある地域が、律令期の筑前国嶋郡に入ることは、大宝二年(701)の「筑前国嶋郡川辺里」戸籍断簡によって知られている。この川辺里戸籍に出てくる人物で、「戸主「嶋郡大領」「肥君猪手(ひのみみ)のいで」の庶母の氏名は、渡来系氏族の尊称である「吉士」を名字の下につけた「宅蘇吉士須彌豆売(たくそきしすみずめ)」という。また正妻のほかにも三人いる妾のなかにも「宅蘇吉士橘売(たくそきしたちばなめ)」がいる。この「嶋郡大領」の母方と、妾の実家が「宅蘇吉士」なのである。「宅蘇吉士」の所在地を知る資料はない。しかし当時の糸島には、嶋郡と怡土郡があり、その怡土郡の中心地が現存する怡土城内の高祖神社のある「高祖(たかす)」の地ではないかと思う。いまの高祖(た

かす)という地名は、古文献の「高社(たかこそ)」「宅蘇(たくそ)」「卓素(たくそ)」に通じている。つまり「古事記」に出てくる渡来製鉄工人「韓鍛・卓素」が最初に定住した地に、その氏の名をとった「卓素・宅蘇」の地名が付き、やがて「宅蘇」氏が渡来氏族だったので名字の下に「吉士」が付き、律令の戸籍に引き継がれたのではないか。」

(後略)

〔「古代製鉄の研究」筑前の古代製鉄と韓鍛・卓素(宅蘇吉士)のことより抜粋〕

奥野先生は、平安時代初期の怡土郡の七郷ひとつである「託社郷」について、その語源が製鉄技術を携えた渡来系の「託蘇氏」であり、渡来集団の初期の拠点が現在の「高祖」につながる「託社郷」であろうと推測されている。

一方、福岡大学の桃崎祐輔先生は、前原市多久の口木2号墳から出土した棘葉形杏葉に着目され、近隣にある「多久社神社」を「託蘇」の転化ととらえ、この地が「託社郷」でないと推定している。

平成18年度に多久社神社に近い多久遺跡D地点から、蔵器器4個をおさめた奈良時代前半の小石室が発見され、さらに、石室の周囲からは鉄滓が出土しました。被葬者たちが鉄生産に関わっていた可能性があるとして注目されました。

周辺に目を移しますと、多久遺跡に近い奈良尾遺跡や上鑑子遺跡では奈良時代の鍛冶遺構、多久川河口に近い萩浦塚の下遺跡では製鉄、鍛冶遺構が確認されています。多久川を見下ろす丘陵上では、数こそ少ないものの、後期～終末期にかけての古墳群が立地し、渡来系集団の存在と鉄の生産加工を関連付ける遺跡が集中することがわかりました。糸島地方の初期の鉄生産を検討する上で傾聴すべき見解といえます。

## 5. 律令期の鉄生産

### ●大規模な鉄生産コンビナートを形成した

#### 糸島地方

古墳の築造も終焉を迎えた七世紀になると、製鉄に関連する遺跡が発見されています。特に糸島半島では元岡遺跡など大規模な鉄生産遺跡が調査され、わが国屈指の鉄生産地帯であったことが

わかってきました。

### ●糸島半島の主な製鉄遺跡

元岡遺跡の製鉄遺構群 奈良時代を中心とする大規模な製鉄遺跡が発見されています。特に12次調査地点では、27基の製鉄炉が調査され、狭い範囲に遺構が集中的に分布することや、同時に数グループが操業されていることは、他の製鉄遺跡には見られない特徴で、公的な製鉄工房であったと考えられています。

八隈製鉄遺跡 奈良時代の7基の製鉄炉、炭窯、砂鉄貯蔵穴などが発見されました。炉壁も良好な状態で出土し、三角形の送風孔が確認され、当時の炉の構造を知る上で貴重な発見となりました。大原遺跡群 奈良時代から平安時代にかけての製鉄遺跡です。桑原遺跡同様に糸島半島での製鉄の拠点であったと考えられています<sup>4</sup>。元岡遺跡に比べ操業期間が平安時代までの長期にわたっているのが特徴です。

### ●鍛冶工房が多かった怡土郡域

近年では、旧怡土郡域である前原市、二丈町、福岡市の今宿、周船寺地区でも奈良～平安時代の製鉄に関する遺跡が多く発見されています。

奈良尾遺跡 現在の西九州自動車道路の前原インターチェンジの一角に当たります。調査の結果、奈良～平安時代初期の鍛冶工房が出土しました。鍛冶炉2基、建物2棟などが発見されました。調査の結果、鍛冶の際に飛び散る鍛冶剥片とよばれる小鉄片が多数出土したことや、小鍛冶のときにできる鉄滓が出土したことから、鉄の最終的な加工を行う工房と推定されています。

坂の下遺跡 丘陵の谷間で発見された奈良時代の遺跡です。斜面に3棟の壑穴住居、2棟の掘立柱建物、鍛冶炉、廃滓溝などが出土しました。鉄滓を観察した大沢正巳先生によると、鍛冶滓とともに精錬滓もあり、鉄生産にも関わっていた可能性があります。

上鑑子遺跡 丘陵の西斜面を造成して営まれた鍛冶工房群が確認されました。掘立柱建物や鍛冶炉の痕跡、鉄滓などが確認されています。

怡土城郭内遺跡群 大門地区の土塁の裾の発掘調査で、大量の鉄滓が発見されました。城内で行った鍛冶により生じた鉄滓を土塁下に投機した可能性があります。

これまでの調査の結果からみると、律令期においては、半島部では元岡遺跡に代表されるように鉄生産が精力的に行われたことがわかります。半島部では、製鉄から鍛冶まで鉄生産の一連の工程が展開されているのに対し、怡土郡域で鍛冶工房が中心に発見されていて、製品の供給に向けての加工を主体とした工程を主体に行うといった役割分担が行われていた可能性も想定されます。

元岡遺跡で生産された鉄の供給地としては、大宰府が想定されることが多いですが、糸島地方では七世紀から八世紀にかけて、雷山神籠石、怡土城、稲積城と相次いで大がかりな築城が行われており、これらの築城事業に必要な鉄製品の供給も、当然考慮に入れておく必要があると考えられます。

#### ●製鉄に欠かせなかった木炭

製鉄に関連する遺跡として最近注目されているのが木炭窯です。木炭は鉄を作るのに不可欠で、一説では鉄の素材1kgを作るためには、その5～6倍の量の木炭が必要だともいわれていて、その確保も重要であったと考えられるのです。

木炭窯ではないかと考えられる遺跡が千町田遺跡、藤原遺跡、八熊製鉄遺跡、向畑古墳(以上志摩町)、上鐘子遺跡(前原市)、大原A遺跡、大原D遺跡(福岡市)など、製鉄に関連する遺跡の隣接地で見つかっています。

いずれも時期を示す遺物に乏しく、用途についても断定が難しいところもありますが、近くに鍛冶、製鉄遺構が確認されることが多いことなどから、木炭窯であった可能性が高いと考えられています。

#### ●大規模製鉄の終焉

元岡遺跡で鉄生産のピークは8世紀中～後半です。このころの東アジア情勢は、わが国と新羅との軍事的緊張関係が続き、天平寶字3(759)年～6年にかけて大宰府下の筑前、筑後、肥前、肥後、豊前、豊後、日向の九州七国に甲刀弓箭を製造さ

せ、各国に船や兵を集めて戦闘訓練を行ったり兵器を作らせたりして戦いに備えていました。

奈良尾遺跡について、調査を担当した中間研志氏は人里離れた山奥で大がかりな造営を行ってまで鍛冶工房を営んでいることから、簡易な野鍛冶ではなく、集中して製作に没頭することができ、たとえば刀剣など特殊な製品の加工などに携わったのではないかと考えられました。

糸島の各地で行われていた鉄づくりも奈良時代末には急速にその勢いを失っていきました。神護景雲2(769)年に怡土城の完成後、平安時代の初期には城もその役割を終えて廃城となったと考えられています。現在のところ、平安時代初期まで継続して操業された製鉄遺跡は大原遺跡、石崎曲がり田遺跡など減少しています。

怡土城への鉄の供給が下火となったことも当地の鉄生産の減少と少なからず関係があるものと考えられます。

#### 6. おわりに

##### ●村の鍛冶屋

このように、平安時代以後の糸島地方の鉄生産については、まだよくわかっていません。

飯原門口遺跡では、鎌倉時代の集落のはずれにある掘立柱建物から鍛冶炉が確認されています。おそらく農具や鉄製品の修理や製作を行っていた「村の鍛冶屋」ではないかと考えられます。

同じような遺構が糸島各地の中世集落で発見されていますが、詳しい様相については今後のさらなる資料の追加を待ちたいと思います。

##### 参考文献

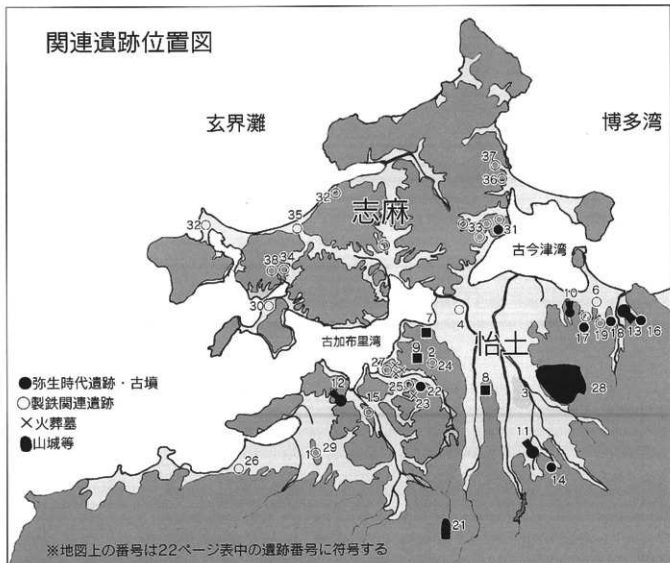
- 福岡市教育委員会「大塚遺跡現地説明会資料」2008
- 桃崎祐輔「九州における古墳時代後期の馬具とその変遷」『後期古墳の再検討』第11回九州前方後円墳研究会編 2008
- 仲間研志「奈良尾遺跡」福岡県教育委員会1992
- 奥野正男「韓鍛(からかぬち)・卓車(たか)の系譜」『日本文化と朝鮮』第3集 新人物往來社・1978
- 「韓鍛冶・卓車の系譜」金達寿編『日本のなかの朝鮮文化』24号 1974年

	遺跡名	特記記事	弥生				古墳			飛鳥・白鳳		奈良		平安時代		出 典 等
			早期	前期	中期	後期	前期	中期	後期	前半	後半	前半	中頃	後半	9c	
怡土地域	石崎曲り田遺跡	鉄が大陸から渡来	鉄器	銅棺												1
	上罐子遺跡	鉄器の普及														2
	三雲・井原遺跡	鉄器の普及														3
	潤地頭給遺跡	鉄製工具による玉つくり														4
	今宿大塚遺跡	鉄加工工房														5
	井原樋清遺跡															6
	上町向原遺跡	首長墓への鉄器副葬														7
	平原1号墓															8
	伏籠遺跡															9
	若八幡宮古墳															10
	井原1号墳	首長墓への副葬墳墓の盛行														11
	一貫山饒子塚古墳															12
	鷗崎古墳															13
	西堂四反田1号墳															14
	東下田遺跡	鉄加工?														15
	石ヶ元古墳群															16
	鷗崎古墳群	鍛冶関連資料の副葬														17
	徳永古墳群															18
	相原古墳群															19
	相原古墳群焼土層	木炭窯?														20
	女原上ノ谷製鉄址	鉄滓(湯鉄)・副葬 製鉄遺物?														21
	雷山神籠石	石切り加工技術														22
	多久口木古墳群	渡来系氏族の古墳群														23
	多久遺跡群D地点	火葬墓と鉄滓														24
上罐子遺跡	鍛冶工房														25	
奈良尾遺跡	鍛冶工房														26	
塚田遺跡	鍛冶工房														27	
坂の下遺跡	鍛冶工房 火葬墓														28	
怡土城	怡土城の築城・維持管理														29	
石崎曲り田遺跡	鍛冶工房														30	
志麻地域	御床松原遺跡	漁具・工具の鉄器化														31
	藤原遺跡	木炭窯														32
	元岡遺跡	大規模製鉄工房群														33
	八熊製鉄遺跡	製鉄工房														34
	吹切遺跡	製鉄工房?														35
	大原D遺跡	製鉄炉・炭窯・鍛冶炉・製錬炉														36
	大原A遺跡	製錬炉(箱形炉)・焼土層(炭窯?)・鍛冶遺構														37
千町田遺跡	木炭窯														38	

糸島地方の主な鉄関連遺跡一覧

番号	出典等
1	橋口達也「曲り田遺跡3」今宿バイパス関係埋蔵文化財発掘調査報告書第9集 1984年 福岡県教育委員会 橋口達也「石崎曲り田遺跡3」今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告書第11集 1985年 福岡県教育委員会
2	野田純子「上籠子遺跡」みえてきた伊都国人の暮らし 1996年 前原市教育委員会
3	柳田康雄他「三雲遺跡1～IV」福岡県文化財調査報告書第50, 60, 63, 65集 1980～1983年 福岡県教育委員会
4	江野道和他「潤地頭給遺跡」前原市文化財調査報告書第78集 2005年 前原市教育委員会
5	「今宿大塚遺跡現地説明会資料」2008年 福岡市教育委員会
6	青柳種信「柳園古器略考」1822年
7	塚本敏夫他「前原市上町向原遺跡出土素環頭大刀の理化学的分析による年代および産地同定」日本文化財科学会研究発表要旨集 2003年
8	角浩行他「平原遺跡」前原市文化財調査報告書第70集 2002年 前原市教育委員会
9	川村博「伏籠遺跡」前原町文化財調査報告書第2集 1975年 前原町教育委員会
10	柳田康雄「若八幡宮古墳」今宿バイパス関係埋蔵文化財発掘調査報告書第2集 1971年 福岡県教育委員会
11	岡部裕俊「井原1号墳」前原市文化財調査報告書第83集 2004年前原市教育委員会
12	小林行雄「一貫山銚子塚古墳の研究」福岡県史跡名勝天然記念物調査報告書13 1952年 福岡県教育委員会
13	杉山富雄他「鷗崎古墳」福岡市文化財発掘調査報告書第730集 2002年 福岡市教育委員会
14	岡部裕俊「井原地区周辺の古墳群」前原市文化財調査報告書第51集 前原市教育委員会
15	1985年発掘調査 岡部調査所見
16	「元岡・桑原遺跡2」福岡市埋蔵文化財発掘調査報告書第744集 2003年 福岡市教育委員会
17	荒巻宏行「鷗崎古墳群2」福岡市埋蔵文化財調査報告書第506集 1997年 福岡市教育委員会
18	池田祐司「徳永古墳群3 女原上ノ谷製鉄址」福岡市埋蔵文化財発掘調査報告書 第436集 1995年 福岡市教育委員会
19	田中寿夫「相原古墳群」福岡市埋蔵文化財調査報告書第351集 1993年 福岡市教育委員会
20	田中寿夫「相原古墳群」福岡市埋蔵文化財調査報告書第351集 1993年 福岡市教育委員会
21	池田祐司「徳永古墳群3 女原上ノ谷製鉄址」福岡市埋蔵文化財発掘調査報告書 第436集 1995年 福岡市教育委員会
22	原田大「雷山神龍石の列石考」古代学研究」第28号 1961年 古代学研究会
23	角浩行「今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告書」前原市文化財調査報告書第38集 1992年 前原町教育委員会
24	橋崎直子「多久遺跡群D地点」前原市文化財調査報告書第98集 2008年 前原市教育委員会
25	1994年発掘調査 岡部調査所見
26	仲間研志「奈良尾遺跡」今宿バイパス関係埋蔵文化財発掘調査報告書第13集 1991年 福岡県教育委員会
27	橋口達也 仲間研志「塚田遺跡」今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告書第7集 1982年 福岡県教育委員会
28	岡部裕俊「荻浦-集落祭祀生産遺構編-J」前原市文化財調査報告書第100集 2008年 前原市教育委員会
29	1986年発掘調査 岡部調査所見
30	古川秀幸「石崎曲り田遺跡」二丈町文化財調査報告書第27集 2001年 二丈町教育委員会
31	井上裕弘「御床松原遺跡」志摩町文化財調査報告書第1集 1980年 志摩町教育委員会
32	橋口達也「向畑古墳・藤原遺跡」志摩町文化財調査報告書第9集 1988年 志摩町教育委員会
33	菅波正人「元岡・桑原遺跡群4」福岡市埋蔵文化財発掘調査報告書第860集 2005年 福岡市教育委員会
34	井上裕弘「八熊製鉄遺跡 大牟田遺跡」志摩町文化財調査報告書第2集 1982年 志摩町教育委員会
35	橋口達也「吹切遺跡」志摩町文化財調査報告書第12集 1990年 志摩町教育委員会
36	松村道博他「大原D遺跡群1」福岡市埋蔵文化財調査報告書第481集 1996年 福岡市教育委員会 菅波正人「大原D遺跡群2」福岡市埋蔵文化財調査報告書第507集 1997年 福岡市教育委員会 荒巻宏行「大原D遺跡3」福岡市埋蔵文化財調査報告書第737集 2002年 福岡市教育委員会
37	「大原A遺跡1」福岡市埋蔵文化財調査報告書第430集 1995年 福岡市教育委員会 「大原A遺跡2」福岡市埋蔵文化財調査報告書第431集 1995年 福岡市教育委員会
38	川村裕一郎「柿添遺跡 千町田遺跡」志摩町文化財調査報告書第20集 1998年 福岡市教育委員会

# 関連遺跡位置図



伊都国歴史博物館紀要 第4号

発行日 平成21年3月31日

発行 伊都国歴史博物館  
福岡県前原市大字井原916番地  
TEL 092-322-7083

印刷 株式会社デイスジャパン  
福岡市中央区大名1-9-30  
TEL 092-712-0431





